

りつめい

題字・末川 博名誉総長

立命館大学校友会報

Rits
立命館大学

NO.
229

2007
JULY

特集

京都のちからと立命館

【鼎談】千 宗室茶道裏千家家元
長田豊臣立命館理事長
木村一信立命館大学文学部長

Brilliance
輝くひと
62

神と人、世界と日本の
“仲執持”として

上賀茂神社権禰宜
乾 光孝さん（'97文）

03 特集

京都のちからと立命館

千 宗室茶道裏千家家元・長田豊臣立命館理事長・木村一信立命館大学文学部長

01 輝くひと

乾 光孝さん

10 RITSUMEI INTERVIEW

人間の根源的な可笑しさは永遠に魅力的

落語家

桂 都丸さん・桂小春團治さん

14 恩師の窓

坂本和一名誉教授（経済学部）

中山康之元教授（理工学部）

15 自由席

16 学びの交差点

非営利組織の明日を拓く

川口清史立命館総長

中村 正立命館常務理事

22 校友会ネットワーク

24 校友会本部幹事会報告

25 All-Rits立命館校友大会2007のご案内

26 この一点

堂本印象美術館「回帰」

28 キャンパストピックス

32 立命館学園政策ニュース

33 Rits One 輝いていますときの人

村上将規さん

34 学生のスポーツ&イベント

36 INFORMATION



上賀茂神社権禰宜

乾 光孝さん（'97文）

神と人、世界と日本の“仲執持”として

初夏の風が、清らかな「ならの小川」をなでるように吹き渡る。上賀茂神社（正式名称：賀茂別雷神社）は京都最古の歴史を誇る世界文化遺産。ここに国際派神職、乾さんがいる。

4代前のご先祖が神職だった関係もあり、早くからこの道へと決めていた乾さんだが、あえて回り道をしようと立命館大学に入学。近現代日本における政治と神道との関係を学びながら、英語やエスペラント語のサークル、さらには「世界大学生平和サミット」でも活躍した。「立命館での経験のおかげで、日本への愛着と、世界に対する関心の両方をバランス良く養えたと思っています」。

奉職後、外国人参拝者に向けた英語ガイドの説明を小耳に挟み、日本古来の神道の精神が誤解されるのではとの危惧を覚えた。「神職自らメッセージを発していこうと思いました。海外の皆さんに、日本を正しく理解していただくことが、私の願いですから」。これを機に、乾さんは志願して国連NGOの「ニューヨーク宗際センター」へ出向。様々な国の親子を集めての七五三や、マイナーリーグの神式必勝祈願などの取り組みを通じて、日本文化の発信と宗教間の相互理解のために努めた。着任した2003年に「立命館ニューヨーク校友会」を一から立ち上げ、軌道に乗せた行動力も大したものである。

乾さんは言う。「昔の日本人は、自然に宿る八百万の神の力を信じ、それらがもたらす恵みを必要な分だけ頂いて感謝しながら暮らしていました。子々孫々までこの地球上で生活できるシステムの確立が急務である今こそ、日本人の胸の奥に眠るこの良き心性を呼び覚まし、世界に紹介したいのです。ここで私は、神と人との仲を執り持ち、心と呼び起こしていただくきっかけ作りのお手伝いをしていきます。神道は、現実の世界でいかに良く生きるかを考える信仰なのですから」。

<http://www.kamigamojinja.jp/>

（写真・小幡 豊 文・寺田直子）



10



26



34

千 宗室 茶道裏千家家元

長田豊臣 立命館理事長

木村一信 立命館大学文学部長

特集 鼎談

京都のちからと立命館



立命館大学では、本拠地京都の
歴史的・文化的資源の豊かさを背景にして、
様々な教育・研究のプロジェクトに
取り組んでいます。
その意義や、目指すところについて
語り合っていました。



今日庵の立礼席「又新」にてお茶をいただく。左から、千御家元・長田理事長・木村学部長

東京からの距離を 差し引いても 余りある京都の利点

木村 今日日は、千宗室御家元をお訪ねして、「京都のちからと立命館」というテーマで語り合うことにいたします。御家元、理事長、どうぞよろしくお願いいたします。

去る四月、ご承知の通り立命館は「立命館東京キャンパス」を開設いたしました。東京駅に直結したビルに教学の拠点を置き、「関西の立命館」から「日本の立命館」、ひいては「世界に通用する立命館」になることを目指して、教育・研究の高度化に努めております。

私共立命館も、日本の社会も、グローバル化の一層の進展のなかで動きを速めているわけですが、このような時でありますからこそ、ローカルな特徴や、それに内在する力を活かしていくこともまた重要であろうと思います。

立命館は、本拠地京都の歴史的・地理的・文化的な資源の豊かさを教育・研究の展開にうまく反映させることによって、つまりは京都が持っている様々な「ちから」の可視化・可感化によって、いつその発展を目指したいと考えています。

長田理事長は常々、「立命館のアイデンティティ形成には京都の力が欠かせない、京都が本拠地であることを我々のアドバンテージにする」とおっしゃっています。まずは立命館がそれを明確に意識した経緯でありますとか、京都のちからとはいかなるものとお考えであるかといったあたりからお聞かせい



ただけませんか。

長田 私は今、少なくとも週に二回は東京へ出かけています。あらゆることが東京中心であり、東京へ行かなければ話が進まないわけです。往復で五時間はかかる。これは普通に考えれば、あまり喜ばしいことではない。このような学園の本拠地が京都にあることによるデイスアドバンテージを、いかにしてアドバンテージに変えていくかを考えようと、私は絶えず教職員の皆さんに呼びかけてきました。

京都の話から一旦離れますが、いい例がありましてね。大分県の別府に、立命館アジア太平洋大学（APU）を創った時の話です。大分県は大学誘致のプロジェクトに熱心に取り組んでおいででした。できれば工学や、情報処理系の学部を中心に据えたいというお考えだったようです。しかし他の大学は手を挙げませんでした。最も大きな理由は、九州の大分という地理的条件にありました。我々は、これをアドバンテージに変える方策から考え始めました。九州、大分県の特長は何かといえば、歴史的にずっとアジア諸国との交流の窓口であったということです。そこで、アジア学を中心にした教育と研究の体系構築を考えました。新しいアジア

のリーダーを育てようというわけですが、すると、デイスアドバンテージにしか見えなかった地理的条件が、見事なアドバンテージになったのです。

話を京都のことに戻しますとね、東京に出るのに少々時間はかかりますが、京都には千二百年を超える歴史があり、現在も日本の精神的・文化的な首都であります。日本の原点なんですよ、京都は。今は、十八歳人口の約五十%が高等教育を受ける時代です。このような高度成熟国家になった日本において、学問・文化・芸術等々について最も多くの蓄積のある京都という街を拠点に教育・研究を行うということ、これはやはり、非常に大きなアドバンテージであると考えます。

このようなことを意識して、衣笠キャンパスに「アート・リサーチセンター」を設立しましてから、もうかれこれ十年近く経ちます。それを機に、祇園の舞妓さん・芸妓さんの教育機関である「八坂女紅場学園」と提携もしました。女紅場学園さんは素晴らしい文化資料をいろいろとお持ちです。それから京舞の井上流家元、五世井上八千代さんにご協力いただいて、大正期、明治期の舞の非常に貴重な映像記録の復元・保存に関する研究をしたりですと

か、他にもいろいろと文化・芸術関連の研究プロジェクトがありまして、今このアート・リサーチセンターは、文部科学省21世紀COEプログラムに採択されました「京都アート・エンタテインメント創成研究」の拠点になっています。

形成過程での 紆余曲折まで含んだ 深遠な文化こそが 京都のちから

木村 「京都アート・エンタテインメント創成研究」がCOEに採択されたのが二〇〇二年、もう一つの京都学関連のCOEプログラムである「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点」これが翌二〇〇三年の採択、そして二〇〇六年には、私共立命館が、衣笠キャンパスの向かいにあります「京都府立堂本印象美術館」の指定管理者に選定されました。文学部長ということで、私が堂本美術館の館長も兼ねております。堂本美術館と共に「立命館大学国際平和ミュージアム」、「アート・リサーチセンター」の二館を交えた「立命館総合ミュージアム」が構成されました。

さらに今年二〇〇七年には、日本映画発祥の地である京都・衣笠に、学部としては日本初の「映像学部」を開設することができました。立命館の京都学発展の機が、ここへ来て十分に熟してきたと感じるのです。ぜひこのような機会を捉えて、日本全国へ、そして世界へと、京都を核とした国際京都学、日本文化学というものを、私共の教育・研究を通じて発信していきたいと考えているわけです。

さてここで、日本を代表する文化人でいらつしやる御家元から、京都が持つちからに對するお考えを伺いたいのですが。

千 立命館の東京キャンパスが大変便利な場所に完成し、私も拝見して感服したわけです。いわば、京都、立命館に向けての改札口のような働きをするキャンパスなのですね。ただ、あそこは京都学という旅の切符を買えるところではあっても、それだけで一気に目的地に到達できるわけではありません。別の例で申しますと、最近京都のガイドブックや雑誌での京都特集がたくさんございますね。それを読めば、かなりの方が京都についていっぱしの知識を持ったと錯覚してしまわれます。京都の良い事はかりが書かれたその本を丸暗記したような状態で、実際に京都にお越したような際に、何を感じられるでしょうか。粗のほうが目につくかもしれませんね。

京都のちからの根底には、やはり長い歴史と、深遠な文化があると思うのです。しかし政治や経済と同様、文化にもそれが形作られるまでの間に様々な紆余曲折があったはず。寺社文

化でも、いわゆる町衆文化でもそうです。もしもその中の良い部分だけを表に出す観光ガイドブックのような役割であるならば、立命館東京キャンパスではなさらないほうがいいと思いますが、開講される「立命館京都文化講座」に関する資料を拝見したら、さすがに立命館だけあって、そのあたりはよく考えていらつしやると思いました。

京都のちからを支えるものは文化ですが、それは政治や経済と別の座敷にあるわけではありません。日本の国を一つの家庭に例えるならば、まあ現代は男女同権ですから、このような表現を使つてもいいのかわかりませんが、政治や経済はお父さんの役目、そして文化はお母さんの役目だと思います。断言することは危険かもしれませんが、日本は概ねそういう国です。ですから、政治や経済と文化は表裏一体ないしは右手と左手、そして父であり母でありという状態なのです。

立命館の京都学関連のプロジェクトについて伺いますと上手にまとめていらつしやるのがわかります。それぞれがうまくリンクしている。様々な関わりの中から生み出された京都の文化、それに支えられた京都のちからというものを研究・発信なさるための枠組みとして、とてもよろしいのではないでしようか。

木村 大変含蓄の深いお言葉を承りました。私共が東京キャンパスで展開しています「立命館京都文化講座」におきまして、「京の色彩」(京都文化の総体)、「京の乱」(政治抗争)、「京の荘厳と雅」(言語文化や伝統芸能)、「京の生活」(人々の暮らし)といった四つのテー

マを設けてあり、それぞれにコーディネートがおります。御家元のお言葉は、私共にとっても大変励みになり、また自信にもつながります。御家元ご自身は、京都のちからの重要な部分を担われるにあたり、どのようなお心構えをお持ちなのでしょう。

千 そうですね。唐突に生まれた文化は何一つないということを、常に意識しています。文化とは、たくさん的人生がつひとつ組み合わさり、先人から後進へ、心から心へと伝えられてきたものです。おのずから、それが必要であるから手渡されていったものなのです。立命館は、京都学プロジェクトの他にも様々な事業に取り組まれています。それは立命館百年の歴史が生んだ必然なのです。APU開学、東京キャンパス開設、決して唐突なのではなく、百年前から道筋はあったのでしょう。

何事も、~~今~~がスタート地点だと捉えれば、新しいことをしなければという気負いがかえって足枷になるかもしれません。しかし、過去の積み重ねから自ずと生まれた~~今~~なのだと思えば、関係者が心を一つにして未来に目を向けるよい機会にできますね。立命館はこのような発想ができる学園だと、感心しているのですよ。

ローカルな現場で 人々と共につくる 京都学を

木村 あたたいお言葉をありがとうございます。では理事長、立命館百年の計に根差した京都学の研究・教育の、代表的事例や内容について、もう少し

お話いただけますか。

長田 立命館はいろいろな派手なことをしていると言われることもあります。我々はあらゆることに哲学をもつてやっているつもりなのです。私学として、京都で百年間学園を続けてこられたのは、地域からのご支持があったからです。そしてもちろん、教育に対する理想を積み上げ続けてきたからです。

初めに木村学部長が、国際化の進展の中で地域文化の重要性が再認識されていると言われました。その通りです。現在の首都は東京ですが、こちら京都には千二百年を超える歴史があり、それは決定的に大きなことです。この歴史都市において我々は、先程も触れた例ですが、昔からある芸能を、これまで光が当てられなかったものも含めて映像資料等で保存、継承してまいります。それから都市防災研究。火災や水の被害を免れた文化財だけが後世に残るわけですから、どのように保護していくかの研究は大変重要ですね。

映像学部の開設も、文化の保護、継承の観点から長く考え続けていたことと関係しているのです。日本映画の発祥の地は京都であるのに、いま制作の拠点は、ほとんど東京近辺です。すると京都で育まれてきた撮影技術、衣装や道具に関するノウハウもすたれてしまふ。これを何とかしたい、京都の映画産業にもう一度輝きをということで、松竹さん、松竹京都映画さんと連携し、我々同様に強い危機感を持たれていた山田洋次監督のご協力も得られたという具合です。おかげさまで、大変多くの受験生が映像学部の門をたたいてくれましたが、もしもこの映像学部を東

京につくつていたら、これほどの反響はなかったと思いますよ。

それから、木村先生が館長をされている堂本印象美術館は、衣笠キャンパスのすぐ向かいにあります。衣笠などの京都市北西部一帯では、地域住民の皆さんと、そこに拠点を置く四つの大学が連携して「京都歴史回廊協議会」を組織し、歴史的・文化的資源を活用した地域活性化のための取り組みを進めております。あの辺りは、風光明媚で本当に素晴らしいところなんです。我々は堂本印象美術館の指定管理者として、何とか京都の文化芸術の素晴らしさ、奥深さをより強くアピールできないかと、いろいろと構想を練っているところです。

やりたいことはまだいろいろありますが、最後にあえてもう一つだけ挙げますと、宗教研究もやってみてくださいね。宗教教育ではなくて、研究を。京都の歴史や文化を語るとき、宗教が一つのキーワードになります。宗教色のない立命館だからこそ、面白い宗教研究ができるのではないかと思います。

縷々語りましたが、要するに地域に貢献し、地域に受け入れられて初めて立命館は成長できる。全国型へと脱皮するにしても、我々の原点は京都にある。APUでも北海道の立命館慶祥中・高でも、学生・生徒は校歌で、

「仰げば比叡 千古のみどり

伏す目に清しや 鴨の流れの…」と歌っておりますよ(笑)。

木村 文学部が開発した教育プログラムに、「人文学的知の地域還元で変わる歴史都市京都」というものがあります。二〇〇六年度の「現代的教育ニ

ズ取組支援プログラム（現代GP）として文部科学省の採択を受けたものです。これは「京都歴史回廊協議会」と協力して、地域住民・学生・大学教職員の三者で取り組んでいこうというプログラムなのです。地域に支持される立命館でありたいという姿勢を体現しているわけですが、もうひとつのコンセプトは、やはり、歴史・文化が息づく現場で、本物に触れようということですね。ローカルな現場に根差した学術研究、地域の方々とともに作り上げていく京都学を目指したいと。

千立命館は、地域の特徴をととてもよく見ておられますね。今のお話にあった「京都歴史回廊協議会」との連携は、現場主義の京都学とでも言いましょうか、その教育・研究を進める足場として大いに機能するでしょうし、映像学部の新設にしても、衣笠キャンパスの隣の等持院には、かつて、日本映画の父と言われたマキノ省三さんの撮影所があったわけですね。そこで映画・映像を学ぶということは、自然な流れとして受け入れられます。

「地域を見る」と申しますと、歴史を掘り起こして何か無理やり関連づけてはならないと肩に力が入るかもしれません。私はかねてより京都市の審議会で次のようなことをお話ししております。京都は千二百年の都だなどと大上段に構えたことを言わずに、まずは各町内の歴史を学べるような高札を町筋に立ててみてはどうですかと。「うちの町は祇園祭とも関係ないし、ありふれた町名だから何にもないやろ」と思っている子供たちに、例えば、「応仁の乱の時、こ



鼎談風景—裏千家センターにて

こでこんなことがあった」とか、「桓武天皇が平安京に入洛される際にこの道筋を通られた」などと、もし少しでも書いて見せてあげられれば、生まれた町に興味を持ち、誇りも持てるでしょう。立命館が、学生や地域の人々のために、歴史的遺産や文化と強く結びついた京都学関連のプログラムを開発・提供されることは、高札を町筋に立てるのと同じ意味を持つと思います。忘れたがたい光景や体験は、学生の心に、卒業した後もいつまでも残るお土産のようなものになるでしょう。

今、世の中がやかましくなってきたりありますね。自分の考えていることが「聞こえない」と思うことが、私は時々あります。何かをじっくり考えたくても、雑音に耳をとられ、気をはぐらかされてしまいます。そんな時、例えば衣笠キャンパスなり、その周辺の閑静なところを訪れてみれば、ビュアな気持ちになれるでしょう。そして、立命館大学の学生・校友のみならず、APUで学んだ皆さんも、立命館人である自分を見つめ直すことができるはずですね。

日本文化と 密接にふれあう 本当の教養教育を

木村 私たちの意図するところをよくご理解いただき、嬉しく思います。APUにも今年の秋には「現代日本研究プログラム」という国際学生のためのプログラムができるのです。来年の春から半年間、立命館大学大学院文学研究科にAPUの国際学生を受け入

れて、日本文化に関する内容を中心に、英語で授業を行うことになっています。我々の京都学を世界に発信する実践として、力を入れて準備しています。

さて、そろそろまとめに入りたいと思います。京都のちからを活かした立命館の取り組みについての理事長のお考えの、もう一段深い部分でありますとか、御家元からは、学生のご父母の代表としてのお気持ちも含めたお言葉も頂戴できればありがたいです。

長田 京都の文化を守り、継承・発展させるために、立命館大学が何をしているか、またそれを教育・研究とうまく連動させることで広がる可能性についてお話ししてまいりました。最後に、もう少し別の角度から、根本的な問題意識について申し上げます。

いろいろな分野で激しい国際競争にさらされている日本は、多額の資金を投入し、突破口となる高度先進技術の開発を急いでいます。しかし、その成果は本当に上がっているでしょうか。そして中央教育審議会でも、「今の日本人には教養が足りない。教養とは何か。より良い教養教育とは何ぞや」と話し合われています。

どうしてこういう事態になってしまったのでしょうか。新しい技術的発想や、それを生み出すための教養といったものは、ある日突然に出現するものではありません。自分が育つ過程で自然に身に染み込んでいく文化を大切にしなければ、いくらものを教わっても本当の意味での教養として血や肉になることはなく、ましてや素晴らしいアイデアなどは生まれません。日本の場合、着眼点や発想はよそから戴

いて、それを応用、洗練させるということとを長い間やってきたわけですが、今こそ、日本文化そのものと密接に触れ合う教育を早くから行う決断をしないといけません。それが教養教育なのだと思います。単に知識を増やすだけではなくて、自分を取り巻く文化の中でより良く生きるための行動様式、価値観といったものを、早い段階から育てていかなければなりません。その土台がしっかりしてこそ、素晴らしい発想も生まれようというものです。これまで主に立命館大学での研究・教育の話をしておりましたが、いま申し上げましたような思いも込めて、我々は立命館小学校をつくりました。小学校から大学院まで、立命館で学ぶ子供たち若者たちに、日本文化、その根本である京都の文化に親しむ機会をふんだんに提供して、有為な人材を育てていきたいと思っています。

千 私も同感です。日本の高度成長は、外に目を向けることから始まりましたので、これまでは皆さん、多かれ少なかれ外を見ようとしてこれれたと思います。しかし、内に目を向ける気持ちがあつてこそ、初めて自分が持つていないものが何かがわかるのですね。自らが何を持たなくてはならないかを考える前に、とりあえず他のみんなが持つていっているものを全部持てばいいという感覚では、押入れの中にしまい込まざるを得ないものが増えていってしまいます。しかし立命館は、常に地元を目を向けておられます。その結果、無駄なものは何一つ作ってこれなかった。本来なら国立学校がやって当たり前のこと、行政がやるべきことに、これだけ使命

感を持つて取り組んでいらつしやる学校で私の子供たちが学ばせていただいていることに本当に感謝いたしております。ご努力の賜物である京都学関連のプロジェクトが、現在学んでいる学生たちのためだけにあるのではなく、その子、孫の世代の立命館をも豊かにしていくことを、いまお話しを伺いました、私は確信いたしました。これからご期待申し上げております。



千 宗室 (せんそうしつ)

茶道裏千家家元
立命館大学父母教育後援会会長

1956年生まれ。
同志社大学文学部卒業後、1982年得度し、坐忘齋玄黙宗之居士となる。同年、裏千家若宗匠。
2002年、第16代家元となり、今日庵庵主として宗室を襲名。
財団法人今日庵理事長、社団法人茶道裏千家淡交会名誉会長、学校法人裏千家学園茶道専門学校校長として茶道人の育成に努めている。
京都造形芸術大学歴史遺産学科教授。また、同志社大学経済学部、中国・南開大学、北京外国語大学にて客員教授を務める。
現在、京都芸術センター館長、財団法人京都府国際センター理事などの公職多数。2006年4月より、立命館大学父母教育後援会会長。

景を山紫水明と形容したのは確かに正しい。山と水と二つの自然を損なわぬかぎり、この都はいつまでも美しく恵まれていよう」と。これが書かれてから四十五年余りを経た現在、京都の価値・魅力は、相対的にいっそう高まっているのではないでしょう。京都に在る喜びと、御家元から戴いたお言葉の数々を深く受け止め、長田理事長共々これからも頑張つてまいります。本日はお忙しいなか、誠にありがとうございます。

長田 豊臣 (ながた とよおみ)

学校法人立命館理事長

1938年生まれ。
1965年、本学大学院文学研究科修士課程西洋史専攻修了。
本学文学部助手を経て、1970年、同・助教授、1979年、同・教授。
プリンストン大学客員研究員（アメリカ学術会議（ACLS）招聘研究員）、コロンビア大学およびニューヨーク市立大学客員研究員（フルブライト上級交換教授）、New School for Social Research附属社会変動研究所客員研究員（アメリカ学術会議（ACLS）上級招聘研究員）を経た後、1993年4月、立命館大学文学部長。1997年4月、立命館副総長・副学長。1999年1月、立命館総長・立命館大学長。2007年2月、立命館理事長に就任。
2007年6月、大学基準協会会長。
文学博士。専門分野はアメリカ史。



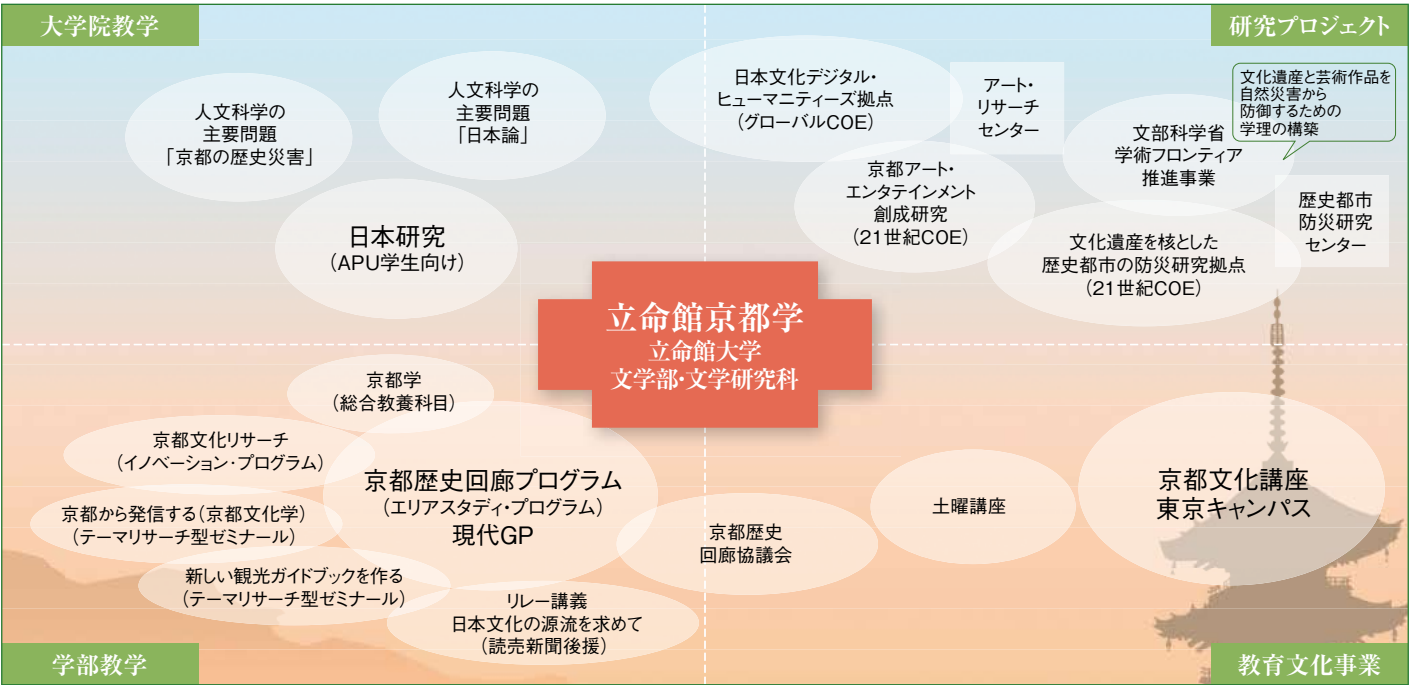
木村 一信 (きむら かずあき)

立命館大学文学部長・立命館理事

1946年生まれ。
1974年、関西学院大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得修了。
熊本県立女子大学、インドネシア大学客員教授（国際交流基金による派遣）などを経て、1990年本学文学部助教授、1991年、同・教授。
2000年、立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部教授・学生部長。
2004年、本学文学部教授として帰任、2005年4月より文学部長。
専門分野は日本近代文学。博士（文学）。



- *1 有利、優越の意。
- *2 日本の大学に世界最高水準の研究教育拠点を形成し、研究水準の向上と創造的な人材育成を図ることを目的として、文部科学省が各大学が応募した中から採択、重点的に資金援助をする研究プロジェクト。
- *3 9ページの図参照。
- *4 一般社会人を対象とした講座。9ページ表中のURL参照。
- *5 文部科学省が、社会的ニーズの高い課題に応じたテーマ設定をし、各大学から応募のあった教育プロジェクトの中から特に優れたものを選定、財政的支援を行うもの。



図：文学部提供

◆立命館大学文学部・大学院文学研究科が取り組む「京都学」関連の主なプロジェクト

研究プロジェクト		
グローバルCOEプログラム 「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」	文部科学省採択事業 2007～2011年度	日本文化・芸術を実践領域として、最先端のデジタル技術を駆使する文理連携型の教育プログラムを展開。国際的に注目されている「デジタル・ヒューマニティーズ」に基づく人文科学研究者を育成。ロンドン大学SOAS、大英博物館など海外の著名研究所・博物館との連携が特徴。
21世紀COEプログラム 「京都アート・エンタテインメント創成研究」	文部科学省採択事業 2002～2006年度	最先端のデジタル化技術を利用して京都の文化や芸能を保存、WEBで世界に発信するという文理融合の取り組み。歴史絵巻に描かれた古都の町並みを疑似体験するシミュレーションシステムの開発等も。
21世紀COEプログラム 「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点」	文部科学省採択事業 2003～2007年度	貴重な文化遺産を有する歴史都市を自然災害から守り、後世に継承するための学理と技術の確立を目指した文理融合のプロジェクト。
文部科学省学術フロンティア推進事業 「文化遺産と芸術作品を自然災害から 防御するための学理の構築」	文部科学省採択事業 2005～2009年度	上記COEを発展させるべく取り組んでいるもの。文化遺産などの防災を、主として人文・社会科学の分野から研究するところに特徴がある。

学部教学・教育プロジェクト		
現代GP 「人文学的知の地域還元で変わる歴史都市京都」	文部科学省採択事業 2006～2008年度	京都市北西地域に焦点を当て、人文学の視点からその特色や資源を再発掘するとともに、その活用の将来展望を地域とともに描くもの。産官学地域連携組織「京都歴史回廊協議会」とともに具体的な教育プログラムを開発する。
京都歴史回廊プログラム	エリアスタディ プログラム	上記現代GPに係る教育プログラム。本学学生だけでなく、他大学の学生や一般市民も受講可能。
京都文化リサーチプログラム	イノベーション プログラム	人文科学分野のうち、社会的ニーズが高い分野について専門的に学ぶイノベーションプログラムのうちの一つ。文学部生であれば専攻を問わず履修可。

立命館京都文化講座	
文学部が東京キャンパスにて開講する一般社会人向け講座。http://www.ritsumei.ac.jp/tokyo/program_0701_kyotobunka.htm	

◆立命館大学が取り組む「京都学」関連の主なプロジェクト

京都歴史回廊協議会 (事務局本学)	京都市北西部に本拠を置く4大学ならびに地域住民が連携して組織している、歴史的・文化的資源を活用しての地域活性化に取り組む団体。立命館が行う「京都学」関連プロジェクトの構想のヒントや、実践の場を提供している土台のような存在。文学部との協同プログラムのほかに、「京都歴史回廊協議会文化ボランティア」等にも取り組む。
立命館総合ミュージアム構想	衣笠キャンパスに隣接する、京都府立堂本印象美術館（指定管理者：本学）、立命館大学国際平和ミュージアム、立命館大学アート・リサーチセンターの3館が連携して、地域の文化芸術的価値の創造に貢献しようとする構想。
映像学部開設	日本の映画とゲーム産業を生み出した歴史文化都市・京都に蓄積された高い映像表現技術と、本学の既存学部やアート・リサーチセンターにおける映像関連分野の教学研究実績を踏まえての新学部設置。

◎問合せ先：立命館大学文学部／075-465-8187・立命館大学教育文化企画課／075-813-8209

桂都丸

さん(74経営入学)

桂小春團治

さん(76文入学)

噺家生活三十年

四月二十八日、上方落語専門の定席、天神繁昌亭。提燈に灯がともると、立命館校友が三々五々集まつてきた。

かつて立命館大学落語研究会の十一代目部長として「安心亭立命」を名乗った桂都丸さんと、当時一回生部員「立命亭梅庵」であった桂小春團治さんが、本年、揃って落語家生活三十周年を迎えた。そんな両師匠が意気投合し、「第一回立命寄席」が実現の運びとなった。

小春團治 とてもいい雰囲気、落語会になりました。ありがとうございます。「立命寄席」ならば、校友同士誘い合つて、これまで落語を生で聴いたことがない皆さんも来てくれるやろと考えたんですが、ほんまにやつてよかったです。

都丸 今日は嬉しいですね。校友会のスポーツ観戦ツアーと同じ感覚で、文化的行事にも気軽に足を運んでいただけまして。

絶妙な技で古典の人情噺を聴かせる都丸さんと、軽快な創作落語で沸かせる小春團治さん。両師匠の芸風が際立ち、繁昌亭の満員の客席には笑いが絶えなかった。

まず、お二人がこの道の人となったきっかけを伺おう。

小春團治 小学生の頃からお笑い全般に興味がありまして、学校の必修クラブで「芸能部」に入つて、落語、漫才、コントと、いろんなことをやりました。初めて落語を演じたのは六年生の時です。初めは笑いの一つのジャンルとして面白いなという程度だったんです。それが中学に入ったら、大変な落語好きの同級

生がいました。学校帰りに落語の本を差し出されて、「これちょっと、読んで聴かしてくれへんか。お前、得意やから」と。それで、登場人物を演じ分けて読んでやりますと、ワーツと笑つて、次の日また、「今日はこの話を」と。毎日毎日。その友達に誘われて生の落語を聴いて以来、本格的に傾倒しまして、高校は落研(落語研究会)のある学校に行こう、と。もう落語まっしぐらになりました。大学も、落研に通つていただけのようなもんで(笑)。途中で三代目桂小春團治師匠に弟子入りしたんで、退学してしまいましたけど。

都丸 私の落語との出会いは遅くて、高校三年の時に「京都市民

人間の根源的な可笑しさは
永遠に魅力的



「立命寄席」中入りの楽屋にて。(左)都丸さん(右)小春團治さん

寄席」で米朝師匠の落語を聞いたのが初めてです。大体、米朝さんが落語家やとは知りませんでしたからねえ。テレビに出てはつても、「ああ、司会する人なんや」とね。落語の存在自体は当然わかってましたけど、能とか狂言とかの古典芸能と一緒にして、「堅苦しいもんなや、きつ」という気でした。それが、米朝さんの落語にふれて、「なんや、こんなおもしろいもんやったんや」と、ある意味大ショックでしたね。大学で勇んで落研に入って、米朝さんになりきったつもりでしゃべってました。私も在学中に、米朝師匠のところのざこば師匠(当時・朝丸)の一番弟子になりました。修行に忙しくて授業料を払わずにいたんで、学籍がなくなってしまうたんです(笑)。

駆け出しの頃の経験もまた対照的であった。それは、その後の落語家としての個性の醸成にも大いに影響しているようだ。

都丸 修行はね、それぞれの門下で違うと思いますけど、基本的にはまず模倣です。米朝師匠のもとでは、模倣どころか、複写しないといけない。全部同じように。ちよつと間の呼吸が違つても、「あー、そこ。違うちがう、違う」と。そのうちに、よそのお師匠はんのところに稽古にいったりもして、そんなこんなで、ほつとも個性は出てきよるんです。それから自分なりの落語の確立を目指すんです。

小春團治 うちの春團治師匠は、ごつつうきつちりした人で、修行期間は酒、煙草、女性には禁止。ところが、修行時代の厳しさなんて、本物の厳しさではないんですよ。三年経つと、「お前には最低限の技術は仕込んだから、勝手に食べていきなさい」と言われる。でも僕らの頃は落語の仕事はそんなになかった。

Rits



せいぜい司会とかね。全然違う業種の、泊まり込みのアルバイトもしましたし…。早く落語で生活できるようになりたい、現状から抜け出したいという気持ちが、毎日の原動力でしたね。

都丸 私はそこまで思ったことはないんですよ。ざっぱ師匠との関係も、僕の入門当時は師匠はまだ三十歳で、「おんなじレベルで話しようや」といったところがあって、「ここはこうやけど、君はどう思う？」なんてディスカッションをしながら稽古したりしてね。ただ、自分の実力のなさに、もう辞めようかと思ったことは何回かありましたよ。一門みんなレベルが高くてね。

小春園治 都丸さんの米朝一門は、ちゃんとお客さんがついていて、耳の肥えた落語ファンが集まる落語会で場数を踏んで育ってきた。僕の所属プロダクションには、漫才師もたくさんいて、新世界の新月月という小さな舞台によく出してもらいましたが、漫才の合間に落語が挟まってる。お客さんは陽気な漫才や音楽ショー目当ての人が多くて、地味な落語は嫌がられるんですよ。「おもろないから、や

めとけ！」と、露骨に野次を飛ばされましたしね。だからその隙を与えんように一生懸命、ガーッとしゃべる。テンポよく演らなあんかった。当時の経験が、いま新しい創作落語にチャレンジする僕をつくっているのかなとも思います。

都丸 私は、ええお客さんの前で米朝師匠が独演会をしはるところを見て、いわゆる古典落語の世界で純粹培養されてきたわけで。でも、「ほんまはあかんねん」と言われてましたよ。雑多なところで頑張ってみないとあかんと。だから若い頃は、何回かは名古屋の大須演芸場なんかでも演らせてもってました。お客は五人とかね（笑）。

噺の主人公はお客自身 イメージ作りを手伝うのが落語家

落語家としてのカラーはずいぶん違うものの、落語という芸の本質について、あるいはその魅力についての両師匠の思いには、かなり近いものがあるのは興味深い。

小春園治 同じ笑いの芸として、落語と漫才がよくくくりに語られますよね。漫才は笑いだけを追究した面白さなんです。三十秒に一回より二十秒に一回笑いをとって、なおかつ大きな笑いを取ろうとするのが漫才。落語はまずストーリーとして面白くなければならなし、笑わせるにしても、大笑いもあれば、にやりと笑わず皮肉めいたものも含まれている。微笑、苦笑、哄笑、爆笑、全部あります。「どう笑わずねん」というところまでがテクニクで、それを非常に大事にしている。この、笑いに対する繊細な感性が好きですね。それから、漫才や漫談みたいなものは海外にもいっぱいあるんですが、一人で何役をも演じて、小道具も具体的なものは一切使わずにやる落語スタイルの芸は、外国にはありません。こう

いうことから考えても、お客さんの頭の中に話術ひとつでイメージを構築して、そこから笑いを生み出す落語という芸は、独特な、魅力的なものだと思いますね。

都丸 そうそう。聴く人が主人公であって、私たちがやっていることは、あくまでもイメージ作りのお手伝いなんです。お客さんのほうから、噺の中に入ってきていただかなければなりませんから、弱い芸ではありますね。まず雑音に弱い。けれども、人の気持ちを深く追求して拾い上げた、人間の根源的な可笑しさともいえるものは、時代を超越した力を持っています。江戸時代、明治時代の話であっても、今の人にも十分伝わってるでしょ。いわゆる古典落語といわれるジャンルでは、その時代時代の噺家さん一人ひとりが、一つの噺をいろいろに解釈・表現して、それが積み重なって噺自体に厚みといえますか、力がついてくるんです。先人が遺してくれた笑いのエッセンスを、現代の噺家である私たちが真摯に受け止め、自分なりの解釈を加えて、後世に伝えていく。この過程が、私としては嬉しいところなんです。ここで解釈というのは、しゃべり方とか、言い回しの部分です。人力車がタクシーになるわけではないんですけど、車夫の言葉遣いが変わるんです。

落語発祥の頃には、「ああ面白かった」「多分これだけだったと思います。そこへだんだんと、「いい噺を聴きましたね」「今のは後味のいい噺でしたね」という、^{いっき}粋のエッセンスが加味されて、人情話が生まれてきた。噺の魅力が増してきたわけですね。

正統派と改革派 それぞれの理想

立命館の落研で出会ってから三十余年、いま両師匠はお互いをどのように見ているのだろうか。

Tomaru Katsura



桂 都丸さん

本名：山下眞史

- 1955年 京都に生まれる
- 1974年 本学経営学部入学
- 1976年 本学落語研究会会長を務める
- 1977年 大学中退。桂朝丸（現ざこば）師匠に入門。
- 1983年 ABC漫才落語新人コンクール最優秀新人賞受賞
- 1998年 文化庁芸術祭優秀賞受賞
- 2003年 大阪舞台芸術奨励賞受賞
- 2007年 噺家生活30周年記念独演会を全国各地で開催

<http://www.hcn.zaq.ne.jp/tomaru/>

Koharudanji Katsura



桂 小春團治さん

本名：三島広幸

- 1958年 大阪に生まれる
- 1976年 本学文学部入学
- 1977年 大学中退。三代目桂春團治師匠に入門。
- 1982・83年 ABC漫才落語新人コンクール新人賞受賞
- 1997年 文化庁芸術祭新人賞受賞
- 2000年 英国エジンバラ・フェスティバル（世界最大の芸術祭）に落語家として初の参加。以降、独自の字幕方式による海外公演に取り組む。
- 2006年 文化庁文化交流使に任命される
NPO法人国際落語振興会設立
Newsweek日本版「世界が尊敬する日本人100」に選出される

www.koharudanji.com

都丸 小春團治さんは、古典に加えて、オリジナルの新作も非常に面白いです。私にはできないですね、創作落語を自分で作るという作業は。これは小春團治さんの大きな才能じゃないかと思います。噺の糸口を見つけるのも上手いんでしょうし、ストーリーに仕立てて、会話調にして…。素人だったときから、その片鱗はありましたけどね。そこが偉いなあ。

小春團治 都丸さんには、なんや昔から風格がありますね。舞台に出てきた時に、オーラみたいなものがあるんです。落語には、「あ、しっかりした人、出てきたな。聴かしてもらお」と感じさせる押しみたいなものが必要なんです。上方落語の場合は、まずは面白さが重要で、なおかつ上手さが要るんですが、都丸さんはこのまま、その両方を備えた正統派古典落語の重鎮になっていく人やと思う。上方落語界の、一人の重しやと思うんですね。

お二人の落語の道は、ときに寄り、ときに離れながらも、理想に向かって未永く続く。



そこに彩りを添えるのが立命館である。

都丸 私、今年三十周年で全国を回らしていただいています。が、「都丸さんの落語を楽しみに待っていますよ」と、コンスタントに呼んでいただけのようになれば一番です。無理をせず、「自分はこれじゃありませんねん」という変

な職人気質は持たずに、立命館の皆さんや、いろんな方々のお付き合いを大切にしながらね。小春團治さんのほうは海外でも頑張っていますよ。

小春團治 僕は、落語の可能性を追求しているんだと思います。これまでにない演出は何やと考えた結果、創作落語ができ、もっと落語のファン層を広げるにはどうしたらいいんやと思いを巡らせて、「そうや、世界には落語を知らない人がまだいっぱいいるやないか」と。当たり前だと考えられてきたことを、ちよつと変えてみるだけで、随分と広がりが出るんです。

都丸 今日は立命寄席ですが、立命館で培った人の輪、ご縁が、ほんまに有難いですわ。「ああ、あんたも立命？ あんたも…」って、独特の連帯感、有難いね。

小春團治 今度、「関関同立寄席」がもしできたら、おもしろいですね。「同志社には負けへん、関大にも負けへんぞ」てな具合にそれぞれの校友会が盛り上がりたら、繁昌亭では、全く客席が足りないね、本当に（笑）。

恩師の窓

恩師の近況や人となり、思い出を、教え子が紹介します

話

題になったTVドラマ「華麗なる一族」では、高度経済成長期における製鉄会社の高炉建設と大銀行の合併劇を背景に、ストーリーが展開されたのは記憶に新しいことと思います。

その舞台となった鉄鋼業界はもちろんのこと石油コンビナートやコンピュータ、自動車産業等々、当時の花形産業を担う「巨大企業の構造分析」をメインテーマに、坂本先生が経済学部でゼミを開講されたのは七〇年代初めのことです。

世界に冠たる巨大企業の実態と問題点について幅広い観点から分析し、現場・現実を重視した上で産業論へと昇華させていく先生の論理展開やエネルギーシナ講義に、私達ゼミ生は本当に新鮮な感動を覚えた記憶が鮮明に残っています。それまでの大学生活における学習は、どちらかと言えば「無味乾燥」で机上の抽象的な学問と感じていた私達ゼミ生にとって、初めて学ぶことの面白さを坂本先生から教えていただいたと確信しております。

その後の先生の多方面におけるご活躍については皆様周知のことと思ひ割愛させていただきますが、永年のご指導によりゼミの卒業生も五百名を超える大所帯に成長しました。毎年、卒業生と在校生が一堂に会し先生を中心に親交を深めるゼミ同窓会を続けてきましたが、先生のお人柄を慕い毎回他に例を見ないほどの大勢のゼミ生が全国から駆けつけます。そろそろまた「同窓生全員集合」の号令が掛かるのを楽しみに待っています。坂本先生のますますのご健勝とご活躍をお祈りいたします。



さかもと かずいち
坂本 和一先生

名誉教授(経済学部)
在職 1968年～現在
産業経済論・現代企業論

先生からの一言

話す言葉、書く文章の鮮度が落ちないよう、努力を続けております。近刊拙著『大学のイノベーション』(東信堂)。近況は、私のホームページをご覧ください。再会を愉しみにしております。皆さんのますますのご活躍を!



教え子
堀田 敬一
(76経済)
株式会社銀行
事務センター所長

下

イツ、中山先生を語る際、このキーワードをはずすことはできません。先生の講義で印象に残るのは、講義内容よりも「ドイツ」でした。「ドイツ」でのご経験が、先生の研究生活に非常に色濃く反映されていると感じられることが多々ありました。学会でベルリンに一緒に緒させていただいた時は、非常に興味深く過ごせたことを思い出します(そのとき一番楽しんでいたのは、いうまでもなく中山先生でした)。

中山先生は「研究者」である以上に「教育者」であるという印象を非常に強く受けたことを思い出します。卒業してから頻りに研究室を訪問させていただきましたが、話題は必ず「学生」の話題と「立命館大学の将来」についてでした。学生の研究環境をよりよくするために奔走され、学園の将来を常に考えられておられるお姿が今でも思い浮かびます。どんな学生にも(たとえ初対面でも)気さくに話しかけられ、親身に時には厳しくご指導されているお姿には、感銘をうけたものでした。

研究室では、物事の本質的なところを見抜き、わからないことに絶対に目をつぶらないということを学びました。研究者としては当然のことですが、なかなか実行することができず、卒業後も、厳しくご指摘いただきました。そのおかげで、仕事につくようになった現在、まだまだ未熟ですが、新しい技術開発にも勇気を持ってチャレンジできるようになりました。

現在は、数学・物理関係の同窓会の会長として、お世話いただいています。「立命館の将来」を今も熱く語られています。これからもお元気で、我々卒業生をご指導ください。



なかやま やすゆき
中山 康之先生

元・理工学部教授
在職 1985年～現在(非常勤)
原子物理学・放射光物理

先生からの一言

我々が立命館を世界の大学にするためには、如何したら良いのか、つねにそれを考えながら、数物会の仕事と週3回の講義に全力投球しています。みな、何時でもいらっしゃい。扉は君たちのために何時でも開けています。



教え子
佐々木宗生
(96院理工)
滋賀県工業技術
総合センター勤務

自由席

心のおもむくままに、言葉を紡ぎましょう



丸山野さんご夫妻と長女弘恵さん

初めて卒業式

丸山野 美次(73歳)

北

九州の地から立命館大学に進んだ親子三人(私、息子、娘)の最後となった長女も、三月二日に産業社会学部を無事卒業となりました。

今回、私は初めて立命館大学の卒業式を経験することが出来ました。私の卒業式の時(一九七三年)は、父が事故に遭って危篤状態であったため帰宅していませんでした。長男の時(二〇〇四年)は、仕事の都合で行けませんでした。やっと今回、長女の卒業式に参列することが出来たのです。当日、キャンパスの中は、ほとんどの女子学生が着物姿で、華やかさと賑わいが

感じられ、時代の変化を如実に体感させられました。式典は厳粛に挙行され、川口総長からは心のもった式辞が送られました。

私と長男は、卒業後地元市の役所に就職し、また、長女も四月から地元の民間企業に就職することとなり、親子三人が北九州の地から京都へ出て、立命館で学び、また北九州へと帰ってきました。今後、三人が三様の立命館大学での四年間の思い出を抱いて社会人として生活をしていくことになります。

今後とも、親子ともども、立命館の発展を北九州の地から願って止みません。

リタイヤ後

嵯峨 暲(62歳)

リタイヤ後映画はシニア顔でパス今も持つカラオケ段位認定書同窓会最初の挨拶誰だっけ?枕元いつも置ける備忘録そばがらの枕が恋し若き目のテスト前校門横でノート買うなつかしき京の送り火今むかしスローライフ口で言えども早き日々

手紙以上の「手紙」

歌子(90歳)

た

たとえば雨の季節になれば、紫陽花がデザインされた切手を探して貼り、旅行に出かければ、その土地の「ふるさと切手」を求めて、絵葉書の一枚も書く。世の中にはあまたの電子メールが飛び交い、私もその恩恵にあずかっているけれど、しかし私は昔ながらの手紙・葉書文化をよく保っている一人ではないかと思う。便箋・葉書・切手、ペン、雅印といった、手紙をかたちづくる品々が、まず大好きなのである。銀座の伊東屋でものぞいたら、なかなか店を出られない。もういくつも持っているのに、素敵なレターセットを見つけてしまったら買わずにはいられない。

そしてそれらの組み合わせの妙が、さらに私を喜ばせてくれる。手紙を出す相手と、自分の気分に合わせて便箋を選び、それに似合った色のインクのペンを選び、文をしたため、切手を選ぶ。この切手選びが一番大切に楽しい。便箋の色柄にマッチさせること、季節感を外さないこと。切手店で額面以上の値段で求めた切手でも、惜しまずに貼る。



最近はどうにも忙しく、会心の出来栄えの手紙はなかなか書けない。しかし学生時代にいつも一緒だった友達、親きょうだいの、稽古事の仲間など、一人ひとりの顔を思い浮かべて「次の休みには、彼女に手紙を…」と思うとき、それだけで気持ちが潤ってくる。

言葉だけではなく、感性をまとうせた「手紙」を、ほんとにとボストに入れる。友は封筒の表を見ただけで、今の私を感じ取ってくれるであろう。そうであってほしい。

自由席原稿募集

校友会編集係まで原稿をお寄せください。ペンネーム可。郵便・ファックス・電子メールのいずれでも結構です。送り先アドレス等は裏表紙をご覧ください。



学びの交差点

非営利組織の明日を拓く

理論と実践、二つのアプローチがいかに出会うか

川口 清史 立命館総長
(政策科学部教授)

中村 正 立命館常務理事
(産業社会学部・応用人間科学研究科教授)

学問の海をわたって 辿り着いた NPOという島

中村 今日(きょう)は総長と、お互いに研究者として学問談義をするということで、いつもとは勝手が違います(笑)、楽しみです。総長は私が大学院生になった頃には、既に先生として立命館にいらっしやったわけですが、研究を始められた際の問題意識や、その後どんな学問遍歴をなさったのかというあたりからお聞かせいただけますか。

川口 そうですね。経済学者としての私の研究は、元々は社会統計学から出発しています。三十一年前、まずは産業社会学部の社会統計学の教員として任用されました。まあ統計学といっても、方法論よりも、日本の経済社会の分析をできるだけ説得力のある形でやりましたので、その手段として統計学を使うという発想だったんです。私の初めの問題意識は、国民所得統計とか、国内総生産といった、マクロ経済学的なところにありました。もつと遡れば、私の大学院時代の先生が、統計を用いた階級分析をずっとやっておられて、私はそのお手伝いをしていたんです。社会の中で人々はどういうように位置づけられるのか、階級構成はどうかといった研究でした。

統計学は様々な領域でお役に立てるので、産業社会学部に来てからは、いろいろな先生方と共同研究をしました。マクロ的、つまり全体的な見地からの問題意識に加えて、地域という視点も持って、統計結果を元に地域行政や社会運動への提言などをしていました。

そうこうしている頃に、京都生活協同組合の理事をやってほしいという話が来ましてね。この実践を通じて、協同組合の役割についていろいろと考えました。

これらが下地として重なり合うなかで、私はア

メリカ留学の機会を得て、あちらでNPOという研究対象を見つけたのです。NPOは、階級論とも、協同組合とも、さらには地域研究とも関係する、とても面白い領域だと思いました。私はNPOの実践に直接関わったというよりも、統計という手法を媒体として、いろんな領域を研究しているうちに、それらが自然に収斂していったような感じなんです。

関心をあえて二つの柱にまとめるとすれば、一つは、従来、経済の主体として考えられていたのは国家と企業ですが、それ以外の「非営利」という第三のセクターを、いかにしてマクロ経済学の中に位置づけるかということ。もう一つは、協同組合を「非営利」という枠組みで捉えようと、それが現実の地域社会においてどういう役割を果たしているのかという問題ですね。

ところで、中村さんは社会学をやっておられるけれど、元々は法学出身でしたよね。

中村 はい、そうなんです。法律学は、それはそれで面白かったですよ。ロジカルで、思考のトレーニングにもなりました。

その法学から、どういう方向へ向かったかというと、社会で起こる問題を法的に解決することはとても大切だけれど、個々の事象の背景には社会問題が大きく横たわっているのだという、法社会学的な関心を持ったわけです。それで社会学研究科に進みました。その関心も、労働問題とか貧困問題といった、ハードでくつきりしたものではなくて、例えば非行とか犯罪といった、人々の行動に表れてくる問題のほうに向かったのです。それで社会病理学を、ということになったんです。社会学的な人々の相互作用に目を向けたその次は、具体的に問題解決に取り組もうと思えました。心理臨床学との出会いです。ソーシャルワーカー、臨床心理士、精神科医らとかかわることが多く、マクロな社会問題を意識しつつも具体的にミクロな問題解決に取り組んでいく、そういう援助的な場面に関心が向きました。

こんなふうに、法学と社会学と心理学の狭間に居ますので、一つの学問としてまとめることが難しいのです。問題解決型の学問に取り組むと、どうしても複合化せざるを得ないというのが、悩みでもあり、楽しさでもあるんですね。

最近「臨床社会学(社会臨床学)」という言い方を提唱しています。個人の問題解決や社会的適応だけが課題ではなくて、行動問題をもつ人たちを取り巻く環境もまた問題なので、それら両方を同時に変える臨床実践が必要だという意味です。社会関係の病理をも対象にするということでした新しい言い方をしています。

NPOとの係わりを言いますと、私も川口先生と同じく、アメリカで出会いました。カリフォルニア州立大学のバークレー校で客員研究員をしていた時に、NPOやNGOがアクティブに活動していることを垣間見たんです。非行少年をNPO活動に参加させて更生させるといった取り組みが随分ありましてね。これに直接的、本格的に係わったのは、阪神淡路大震災の後のことでした。帰国したのが九五年です。大震災の年でした。若い学生たちが行うNPO的活動を、学びの仕組みの中にいかに取り入れるかという議論から始めたんですよ。

実践と理論のなかの NPO

川口 今のお話は、まさに遍歴と言うにふさわしいね(笑)。さて、これは「学びの交差点」という企画の対談ですが、私たちの学問の交差点がどこかというと、やはりNPOでしょうね。多分、中村さんもそうだろうと思うけれど、私は最初から、アカデミズムの中だけで仕事をしようという考えがあまりなかった。アカデミズムと現実の接点に居たいと思っています。現実に対して影響を与えられる、役に立つ学問をしたいと。NPO研究は、この点でも、とてもやりがいがあるんで

川口清史



すよ。

中村 そうですね。ところで、大震災の頃、九五年の一月には先生は何をされていましたっけ。

川口 もう政策科学部に移っていましたよ。学部誕生初年度で。

中村 あの時、政策科学部二期生の学生が中心になって、被災者救援のボランティアをやっていました。彼らはその活動を通じて、ボランティアやNPOへの関心を深めましたよね。

川口 私の後任として政策科学部の教員になった桜井さんも、政策科学部一期生で、震災ボランティア組なんです。実は、日本のNPOには、あの時活動を始めた人がたくさんいるんですよ。

中村 彼らは、ボランティアやNPOといった領域に真剣に身を置きたい、あるいは研究してみたいと思ったわけですよ。私はその情熱を感じ取って、大学コンソーシアム京都に「NPOスクール」をつくったんです。まだNPOの法制度がなかった時ですが、学生にNPOやNGOでインターンをさせる仕組みをつくり、同時に人材育成をしていく。さらに、大学での学びの仕組みとしても、落とし込むことも、結構やったんですよ。そこで活動した人は、いまでも活躍しています。当時のエネルギーは大変なものでし



阪神淡路大震災被災者救援ボランティアの仲間を募る本学学生たち

たよ。

それでさらに、「きょうとNPOセンター」というものをつくりました。NPOのためのNPO。NPOの基盤整備をするための、いろんな実践のお手伝いをする組織です。

川口 中村さんはどちらかというと、実践面を支えてくれたんですね。私はもう少し理論寄りのほうです。世界各国にNPO関連の学会があります。それを統合するような国際第三セクター学会というものができたんです。その第一回大会がハンガリーで開かれた時に（一九九二年）、私、出かけていつて報告をしました。第一回大会で報告した日本人は、私を含めて二人だけでした。そういう意味では本当に、私は日本のNPO学の事始めから係わっていると言えます。すでに一九八六年にはピッツバーグ大学とイェール大学へ行っていました。ピッツバーグ大学はNPOがどんなふうに関わり合っているかということを見てきたし、イェールではその理論研究をやっていましたから。一番古くから携わっている一人です。

中村 僕は実践や現場が好きですが、一応学者なので、先生のようなマネジメント的な、あるいはグローバルな視点も失わないようにしています。川口先生のような少しばかり異なる専門の方々の研究から学んだりしながらやっています。私の立場は科学的実践者です。臨床の実践の企画や組織化に関心があります。とくに対人援助のケアとサービスの領域で多様な試みをおこなっています。

川口 私には協同組合研究というもう一つの柱が

あって、それが盛んなのはヨーロッパです。ヨーロッパの研究者と交流してきた中で、アメリカのNPOとは違う形での非営利組織の発展がヨーロッパにはあるということを知り、とても視野を広げることができました。今、私の関心はボランティア論を超えたところ、社会的企業、ソーシャル・エンタープライズというものに向いているんです。日本ではどんな実践が可能かなあというのを考えているうちに、総長の重責を担うことになり、ちよつと止まっているんですけれども（笑）。ヨーロッパ各国は、福祉国家としての体が縮む方向にある中で、かなり政策的に、福祉の次の担い手である社会的企業を支援しようとしていますよ。

中村 その社会的企業、僕も興味があるんです。僕はNPOなどの組織を、具体的な問題解決をするための心理社会的な仕組みとして捉えているんです。というのは、逸脱行動などの問題を持った人たちは、どうしてもネガティブな文脈で語られがちでしょう。例えば虐待する親、非行少年など行動問題をもつ彼らの反社会的行動、アンチソーシャル・ビヘイビアだけに注目して、厳罰化と言われます。だけれども、彼らはポジティブな側面も持っているんです。これを引き出す社会の仕組みがないから彼らが不具合を起こしていると考えたらどうかと考えるわけです。プロソーシャル・ビヘイビア、つまり向社会的行動を彼らの行動変容の機会として提供するのです。それをケアとサービスという枠組みで位置づけるのです。そうした行動の典型がボランティアであったり、NPO・NGO活動なんです。社会に向かうエネルギーを引き出しながら、協調行動を入れ込んで、適応する機会をつくりだしていくのです。このような文脈で、ひきこもりや不登校などに対しても、いろいろな臨床的援助が組まれています。ケアとヒューマンサービス領域において大きな効果を持つこれらのことを、ビジネス中心モードでも、公的サービスでもない、NPO・NGOといった第

三の存在が担う。社会的舞台措置なんですよ。

川口 中村さんと私と、かなり共通した問題意識を持っているのだと思いますよ。私がヨーロッパ

で、いま注目されている自助グループ^{*}というものを調査した時に、「ボランティアはアングロサクソンの文化だ、ヨーロッパ大陸では自助と連帯

だ」とよく言われたんです。新自由主義^{*}で言うところの「自助」を指して競争させるのではなくて、

自助をベースにしてお互い連帯していくという考え方がヨーロッパ大陸には伝統的にあって、それがアソシエーションに、協同組合にと発展して

いった。だからボランティアとは違うんだと。最近、中村さんの領域でも、自助グループがとても

重要な意味を持っているでしょう。ボランティアも、つき詰めれば、単にお助けするだけではなくて、自立支援に係わっているんですね。協同組合

は其助の組織だし、社会的企業^{*}といっても、自助的なものをいかに持続可能なものにしていくか

という発想で「企業」と言われているわけで、このあたりが私の最近の関心の焦点かなと思って

いるんです。

中村 なるほど。僕たちは意外に近いかもしれませんね。同じことに違う側面から迫っているんですね。

**つまるところは人間論
人の営みを
多面的に捉えて**

中村 ところで、先生がNPOをご覧になるにあたって、経済学者としての眼差しが強まるのは、どんな部分に対してですか。

川口 やっぱ、さきほど触れた、持続可能性という部分でしょうね。サステイナブル。これを考えるときには、経済学的な発想がとても大事です。経済のシステムに適合的でなければ、一時的にはやれても、サステイナブルにはならないことをわ

きまえておかねばという思いは、強くありますね。**中村** ああ、社会経済学という言葉を時々聞くんですが。

川口 ええ、社会経済学と、NPOや社会的企業というものの接点は多いですよ。社会経済学という用語は、人によって使い方がちよっと違うんですが、非市場的経済学を社会経済学と言う人も

いるし、公共経済学を広げたような意味合いの場合も、非市場的な発想とか活動を全部含めて言う場合もあるし、使い方はいろいろあると思いますけれど。

中村 僕が社会経済学とか、社会的企業という言葉に関心をもつのは、ケアやサービスという対人援助の現場には、「社会的交換」が不可欠だと思っているからです。一方的に受け取るだけの援助ではなく、交換という行動をとったサービスのやりとりは、人の自立をものすごく促すんですよ。不登校支援でも非行に対しても。社会に向

かう活動や実践のモチベーションは「報酬」です。肯定的な見返りです。非経済的な共感や承認や関与という見返りも含めて組織される社会的交換が機能することで向社会的行動が持続します。

でも、どうもヒューマンサービスの領域にはこれがうまく入らなくて、「ケアする・される」という感覚、主従関係になってしまうので、もうちょっと対等なものにする、あるいはもつと当事者の主権を大事にするという点では、交換という社会経済的原理の導入がものすごく大切なんです。ビジネスモードというわけではないですが、社会経済の実践をそこに入れることは、対人援助の現場に大事なんです。

川口 経済学の根底にも結局は人間論があります。中村さんの今のお話の一方で、交換のように、それぞれが自立した個人として互いに係わりあうという前提だけでこと足りるのかという問題意識もあるんです。例えばボランティア論の基礎にあるような、アルトゥル・ライズム^{*}というのは何なのか。それはいかに位置づけられるのか。それだけで人間行動が持続するのとか等々、いろんな問題が出てきています。いわゆるミスマッチ的な古典経済学の枠組みには収まらない人間像が、実際の経済活動には沢山ありますから。ですから経済学は、広い意味ではやはり社会経済学でなければならぬと思います。市場での活動という、人間の営みのなかの単純化された一分野だけを捉えていたのではねえ。それが経済のかなり大きなところを占めているのは事実なんです。

中村 私が提唱している「臨床社会学」とか「社会臨床学」といった言い方は、そこに学んでいるんですよ。個人の再適応だけを考える、狭い問題意識ではないじゃないかと。わかりやすいところでは、ひきこもりの青年が語ってくれたことがあります。「僕たちだけに直れと言うな、社会も直れ。僕たちが、何も変わっていない学校や社会に単に戻ればそれでいいのか」という言い方をするんですよ。環境が変わらない限り、自分たちは学校や社会へ戻れない。ならば、単位制高校をつくるなどして、環境の側の選択肢を増やさなければというわけです。イギリスのNPOのある方が、「立ち直りたくても、仕事がない。少年院に入ったことがある自分を誰が雇ってくれるのか」と語り、社会の側の改善を指摘していました。

中村



正



川口 清史 (かわぐち きよふみ)

略歴

1945年生まれ。1974年京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。経済学博士(京都大学)。本学産業社会学部助教授、教授を経て、現在、政策科学部教授。2004年政策科学部長・研究科長。2007年1月より立命館総長・立命館大学長。学外での主な役職は、国際公共経済学会理事、くらしと協同の研究所理事長、財団法人生協総合研究所理事など。

専門分野

経済社会システム、政策学、非営利組織論

主な著作

- ◎『非営利セクターと協同組合』
日本経済評論社、1994年
- ◎『ヨーロッパの福祉ミックスと非営利・協同組織』
大月書店、1999年
- ◎『市民がつくるくらしのセーフティネット』
(共編著)、日本評論社、2004年
- ◎『よくわかるNPO・ボランティア』(共編著)、
ミネルヴァ書房、2005年

川口 まさにそこが、社会的企業の出番です。自立したい人たちと、ボランティアと、そこで働くプロが連携するなかで企業化しようと。これはさらに、問題を抱えた人々を含めた企業体を社会が支援する仕組みがないとできません。イタリアなどでも、刑務所から帰ってきた人々を、社会がどうやって受け入れるかが大問題で、そこで社会的企業が活躍するんですね。

私はね、もし総長にならなかつたならば近々定年のはずだったでしょ。その後は実際に社会的企業をやってみたいとも思っていたんです。成功事例をきちんと調べて、資金も集めて、できたらなあ。

中村 まだこれから、可能性はあります。でも多分、先生の場合は、総長職が巨大な非営利組織のリーダーとしての実践のようなものですよ(笑)。総長は大変な仕事ですが、先生には内発的なモチベーションがあるからできる。それに私も共感して、部下として働こうという気になるわけですね(笑)。

川口 まあ、それはさておき、やはり理論を試してみたいという気にはなるんです。イタリアのトリント大学のボルザガ教授、社会経済学者で、熱心

なクリスチャンなんですが、イタリアの社会的企業連合の実践的な指導者なんです。彼のような仕事のスタイルに憧れますね。

市民社会の活性化をめざす数々の試み

川口 中村さんは、ご専門の対人援助の分野以外のところでもNPO関連の仕事をたくさん手がけていらっしゃいますが、どんなものがありますか。

中村 「きようとNPOセンター」では、京都府庁のパートナーシップ推進室というセクションと協働で職員が働いています。それから、近畿労働金庫という労働者福祉の理念をもつ金融機関があるのですが、そこと提携して、「きようと市民活動応援 提携融資制度」を作りました。創業的、起業的なNPOを支援したいということで、一件五百万円まで融資します。五百万というのは、一般的にNPOの新規立ち上げのために必要だと言われている資金で、リスクはあるけれど、まあ、回収できそうな金額ですしね。

川口 グラミン銀行のようなものです。昨年、

ノーベル平和賞を受けた。

中村 そうです。融資にあたって、きようとNPOセンター内に設置した公益性審査委員会が、公益性が高い活動かどうかを審査します。僕は審査委員長をしているんです。

川口 申し込みは、何件あったの？

中村 二十件くらいですね。

川口 それは大したものだね。

中村 今、実際に融資しているのが三件です。きちんと返済するための計画を立てることは、NPOの組織的マネジメントの仕組みの強化にもつながります。

それから、いろんなNPOが、ただ存在するだけではだめなので、次の目標として「市役所」をつくろうと思っています。

川口 えっ、「市役所」をつくるの？(笑)。

中村 NPO、NGOには専門的な団体が相当あります。環境、医療分野、福祉、都市創造とか。専門性は大切です。ですから、医師や弁護士、大学教員などの専門家がNPOに参加することが大事なんです。今、市民による統治の度合いを高めたいということで、各専門分野のキーパーソンになれる人を集める構想を練っています。市役所と



中村 正 (なかむら ただし)

略歴

1958年生まれ。1986年本学大学院社会学研究科博士課程修了。本学産業社会学部助教授を経て、現在、教授（大学院応用人間科学研究科教授を兼務）。2007年3月より立命館常務理事。学外役職としては、きょうとNPOセンター常務理事、京都コミュニティ放送理事、家庭内暴力相談のメンズサポートルーム主宰。

専門分野

社会病理学、臨床社会学、社会臨床学

主な著作

- ◎『「男らしさ」からの自由』
かもがわ出版、1996年
- ◎『家族のゆくえ—新しい家族社会学』
人文書院、1998年
- ◎『京都発NPO最前線』
京都新聞社、2000年
- ◎『ドメスティック・バイオレンスと家族の病理』
作品社、2001年

川口 普通の人々にも、ぜひNPOに関心を持ってほしい、参加してほしいね。

中村 その仕掛けとして、コミュニティラジオ局を作ったんですよ。「京都三条ラジオカフェ」というFM局で、NPO法人としては初めて放送免許をもらいました。ラジオには人が集まります。向社会的行動の典型なんですよ。「あなたがスポンサーです。一分間五百円で電波を買ってください。こう言いますと、しゃべりたい人はいっぱいいます。小学校のあるクラスで、カンパを集めて十分間の番組を買い、記念の番組をつくりました。家族が記念日に、とかです。立命館の学生たちによる番組もあります。人が自然に集まる仕組みをつくり、自発性をうまく組織する、しかもボトムアップ式にやるとというのがコツですね。そのかわり番組の質が問題になるので、良い番組を作ったグループが講師になって、レベルアップのため

の講座を開きます。こういう形で向社会的行動の連鎖が起ころんです。

川口 しかし中村さんは、本当にいろいろと先んじていて、私は羨ましいなあ（笑）。

中村 でも僕たちは、先生方が築かれた理論があれば実践の整理がうまくできません。だからとても感謝しています。

川口 私は逆に、中村さんたちの実践の中から、うまくいきそうな事例を拾って理論化していきますよ。ああそうか、この活動は理論上はこのように位置づけられるな…、という具合にね（笑）。

中村 NPOの実践者たちは、実践によって状況証拠をたくさんつくって、社会に風を吹かせているとは思いますが、その整理、説明、伝達の



「京都三条ラジオカフェ」スタジオで、番組「ぼららじ」収録中の本学学生たち
(写真提供：坂田謙司産業社会学部教授)

ためには言葉が要ります。ですから学問の府である大学の役割はものすごく大事です。何といっても言葉が大切だし、学術用語は世界共通ですからね。

川口 本当にそうですね。それを肝に銘じて、研究者・教育者として、そして立命館大学に責任を持つ者として、これからも努力しましょう。

〔注〕

- *1 Nonprofit Organization 民間非営利組織
- *2 京都府内に本拠を置くすべての大学、短期大学が加盟する連合組織。大学と地域社会・産業界の連携を強めるとともに大学相互の結びつきを深め、教育研究の向上とその成果の還元を図ることを目指す。
- *3 事業を行い報酬を得るが、その目的を営利ではなく、社会的価値の創造に置く組織のこと。行政からは独立している。
- *4 何らかの共通する問題を抱えた当事者同士が、自発的に係わりあい、助けあう中で、自ら問題解決を目指すとするグループ。
- *5 イギリス・アメリカ・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドなどの、イギリスに端を発する文化。
- *6 政府の介入をできるだけ自由な市場活動によって経済発展を目指す立場。「小さな政府」論もこれに基づく。
- *7 Auden H. 利他主義
- *8 Adam Smith アダム・スミス（一七三二—一七九〇）。イギリスの経済学者・哲学者。経済学の父と称される。「国富論」。
- *9 ばらばら <http://rits.ac.jp/oraet/>
文部科学省の教育助成事業（現代GP）「地域活性化ボランティア教育の深化と発展」の一環として生まれた、産業社会学部の学生を中心に、文学部、政策科学部の学生が参加したラジオ番組。京都三条ラジオカフェから、地域に密着したボランティア情報を発信する十五分間番組。

Alumni Association Network

*詳しくは校友会ホームページをご覧ください
<http://www.ritsumeai.ac.jp/mng/al/>

- 5/19 スポーツフェロー春の懇親会 (430名・全日空ホテル)
- 5/30 立命土木36卒同窓会
(55名・朱雀キャンパス「Tawawa」)
- 6/1 S33法学部同期会 (50名・朱雀キャンパス)

サークルOB・OG会

- 3/10 北朋会総会
(11名・札幌後楽園ホテル)
- 3/17 会計学研究会OB会総会
(40名・朱雀キャンパス)
- 3/18 陸上競技部創部
80周年記念式典
(295名・京都タワーホテル
9階)
- 5/9 第10回'68年卒
ワンダーフォーゲル部OB会
(21名・新高穂温泉)
- 5/13 写真研究会OB会
カメラハイク「播磨路探訪」
(20名・姫路城)



北朋会総会



陸上競技部創部80周年記念式典



写真研究会OB会

その他の会

- 3/17 立命館大学体育会歓送会 (270名・大津プリンスホテル)
- 4/5 APU校友会入会パーティー
(ビーコンプラザ・レセプションホール)
- 5/29 広島県校友会(女性の会)
(30名)
- 6/9 大阪地区新人歓迎会
(45名・大阪オフィス)
- 6/9 愛知県校友会新卒歓迎イベント
(70名・ザ・ワインバー)
- 6/9 関西女子校友会
(60名・朱雀キャンパス)



関西女子校友会

京都歴史回廊文化塾、 いよいよ始動!!

京都歴史回廊協議会は、立命館大学教育文化事業部を事務局として2004年に設立され、地域住民と一体となったまちづくりを目指し、様々な文化事業や文学部における現代GP「歴史回廊プログラム」の運営協力など多面的な活動を行って参りました。そして今年度7月からは、より広く社会に開かれた**体験・滞在型教育プログラム「京都歴史回廊文化塾」「しばし京都人」**が発足します。その他にも、9月から12月にわたり、協議会参加4大学（京都嵯峨芸術・花園・佛教・立命館）が各々実施する“しばし京都人”定期講座をはじめ、子ども向け、留学生向け企画など内容満載です。今後の京都歴史回廊協議会の取組みにご注目下さい! 校友の皆さまのご参加、お待ちしております。



しばし京都人オープニング企画

日時

7月18日(水)～20日(金)

プログラム

- ◎浅田次郎氏講演会
- ◎京都、島原地区での太夫道中鑑賞
- ◎4大学講師による文化講座 など

※お申し込みが定員を超えた場合など、お断りさせていただく場合がございます。

料金等の詳細は京都歴史回廊文化塾事務局(近畿日本ツーリスト内)まで。

TEL. 075-212-2197・2045

(9:15～18:00土日祝除く)

<http://www.kyotoec.com/rekishikairou/>



文藝春秋提供

今後の企画

◆ジュニア文化塾

【日時】8月8日(水)～9日(木)

【プログラム】「妙心寺御精霊迎え」坐禅体験&灯籠づくり

◆しばし京都人 定期講座

◎9月12日(水)～14日(金) 予定

花園大学プロデュース「人と文化～禅～」

◎10月19日(金)～21日(日) 予定

立命館大学プロデュース「京の雅を映す」

◎11月開催予定

佛教大学プロデュース「京都と公家社会」

◎12月開催予定

京都嵯峨芸術大学プロデュース「扇面の絵を描く」

日程、内容等の変更につきましては、随時、最新情報を歴史回廊HPに掲載致しますのでご覧ください。 <http://www.kairou.org/>

上記プログラムに関するお問合せ先

京都歴史回廊協議会 事務局

学校法人立命館 教育文化事業部 教育文化企画課

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1番地 Tel: 075-813-8247

Fax: 075-813-8262 <http://www.kairou.org/>

校友会ネットワーク

本年3月中旬～ 6月上旬に行われた各団体の行事です(判明分)

都道府県校友会ほか

- 3/10 滋賀県校友会セミナー (50名・滋賀ビル9Fかすが)
- 3/16 山口県校友会総会 (40名・カリエンテ山口)
- 4/29 千葉県校友会「第31回歴史地理探訪」 (36名・千葉史跡)
- 5/19 奈良県校友会総会 (200名・天理教第38母屋)
- 5/26 山梨県校友会総会 (44名・ホテル古名屋)
- 6/10 静岡県校友会総会 (100名・クーボール会館)



千葉県校友会「歴史地理探訪」



奈良県校友会総会



山梨県校友会総会

地域校友会

- 3/10 東京校友会「Ritsトレッキングさーくる番外編」 (6名・つくば山梅紀行)
- 3/16 山口県山口地区校友会総会 (40名・山口市湯田温泉「カリエンテ山口」)
- 3/17 東三河支部総会 (80名・豊橋グランドホテル)
- 3/17 北京校友会総会 (17名・北京航天航空大学)
- 3/27 京田辺支部朱雀キャンパス・BKC見学 (11名・朱雀→Tawawa→BKC)
- 4/21 兵庫県校友会西宮支部総会 (50名・「煉瓦館」ホール)
- 5/12 宇部・小野田地区校友会講演会 (40名・宇部氏文化会館)
- 6/19 東京校友会「Ritsトレッキングさーくる番外編」 (10名・名栗温泉)



宇部・小野田校友会講演会

職域校友会

- 3/14 兵庫県庁清和会年次総会・懇親会 (36名・兵庫県民会館)
- 3/24 清和会拡大幹事会 (50名・朱雀キャンパス)
- 4/ 5 東芝Rits・APU新人歓迎会 (東芝本社ビル2階)
- 5/19 行政書士京都立命会総会 (15名・朱雀キャンパス「Tawawa」)
- 5/22 奈良市役所立命会臨時総会 (51名・共済会館ヤマト)
- 5/22 高松市役所立命会 (37名)
- 5/26 建設会広島県支部第40回記念総会 (85名・リーガロイヤルホテル広島)
- 6/ 1 西宮市役所立命会総会 (50名・西宮神社会館)
- 6/ 4 姫路市役所衣笠会総会 (40名・ホテル日航姫路)
- 6/ 6 高槻市役所槻立会総会 (42名・アンシェルデ・マリアーージュ)
- 6/ 6 池田銀行比叡会 (35名・ホテルアイボリー)



高松市役所立命会



高槻市役所槻立会

学部・学科校友会

- 3/21 英米文学同窓会 (35名・京都ガーデンパレス)
- 3/21 情報会総会 (5名・BKCリンクスクエア)
- 4/ 7 塩田ゼミOB会 (朱雀キャンパス)
- 4/16 昭和22年専経同窓会 (20名)
- 4/29 経済学部上野ゼミ同窓会 (衣笠キャンパス)



英米文学同窓会



昭和22年専経同窓会

2007年度 校友会幹事会報告

6月2日(土)、午後1時30分から校友会常任幹事会、続いて午後2時30分から校友会幹事会を、朱雀キャンパスにて開催した。校友会本部が朱雀キャンパスに移転して以来初めての幹事会とあって、校友会三役・常任幹事・幹事の170名が全国から出席した。

幹事会は、キャンパス5階の大講義室にて行われた。冒頭、長田豊臣立命館理事長からご挨拶・学園近況報告をいただき、さらに、本年初めてご参加いただいた森島朋三常務理事からもご挨拶をいただいた。

続いて、山中諄校友会会長を議長に、議事を進めた。

審議・承認事項

◆新卒幹事・推薦校友の承認

学部からの推薦に基づく以下の方々、2007年3月卒業の新卒幹事として承認された。

◎法 : 山崎裕香氏	◎経済: 牛田有香氏
◎経営: 宇野佐世氏	◎産社: 吉村絃樹氏
◎国関: 西村 彩氏	◎政策: 近藤貴馬氏
◎文 : 深山絵梨奈氏	◎理工: 諏訪広樹氏

また、4名の方が推薦校友として承認された。

報告事項

◆2006年度決算・2007年度予算案の報告

渡辺三彦財務委員長から報告が行われた。決算額・予算額は別表の通りである。

◆オール立命館デー in 東京の開催について

西村義行校友会副会長兼総務委員長(校友大会実行委員長)から、本年の校友大会は「オール立命館デー in 東京」として、11月4日(日)、東京国際フォーラムにて開催することが報告された。

この大会は、立命館大学校友会・立命館アジア太平洋大学(APU)校友会・立命館附属校同窓会協議会が、学校法人立命館と全面的に協働し、母校の全国展開に寄与しつつ、オールリッツの校友ネットワークのさらなる強化を図るためのものである。

なお、幹事会終了後には、キャンパス1階の多目的室にてティーパーティーが行われた。多忙な毎日の合間を縫って参加した幹事たちが交流を深めるひとときとなった。

【校友会2006年度決算・2007年度予算案】

●収入の部

科 目	2006決算額(単位:円)	2007予算額(単位:円)
前年度繰越金	19,150,455	16,520,539
会費収入計	193,892,400	207,900,000
資産運用収入計	1,950,781	1,950,000
大会収入計	13,224,750	8,000,000
その他収入計	284,179	24,354,756
合 計	228,502,565	258,725,295

●支出の部

科 目	2006決算額(単位:円)	2007予算額(単位:円)
人件費支出	19,588,483	17,400,000
一般経費支出	36,006,011	36,050,000
組織強化費支出	37,343,460	44,500,000
事業費支出	64,544,072	95,224,756
特別会計繰出	(*) 54,500,000	54,500,000
予備費	0	11,050,539
翌年度繰越金	16,520,539	0
合 計	228,502,565	258,725,295

(*) 特別会計繰出(支出の部2006年度特別会計繰出)としての執行の内訳
 終身会費積立金繰出 50,000,000 (積立合計: ¥845,986,118)
 会館建設基金繰出 2,000,000 (基金計: ¥69,540,841)
 名簿発行準備金繰出 2,000,000 (準備合計: ¥21,746,824)
 記念大会準備金繰出 500,000 (準備合計: ¥5,602,890)
 計 54,500,000



オール立命館デー in 東京

All-Rits

立命館校友大会 2007

秋の京都の恒例行事であったAll-Rits 立命館校友大会が
今年は「オール立命館デー in 東京」として、ますますパワーアップ!
全国展開する総合学園立命館の力強い息吹を、あなたもぜひ体感してください。

日時

2007年11月4日(日) 12時～17時

(一部企画は11時開始)

会場

東京国際フォーラム (JR有楽町駅から徒歩1分)

主催

「オール立命館デー in東京」大会委員会

学校法人立命館・立命館大学校友会・立命館アジア太平洋大学校友会

立命館附属校同窓会協議会(清和会・鳳凰会・慶祥会・早苗会)

開催予定イベント

- ◆ All-Rits 立命館校友大会2007
- ◆ 立命館大学・立命館アジア太平洋大学
オープンキャンパス(会場内にて)
- ◆ 京都みやび展
- ◆ 著名校友トークショー など

現在、企画準備中。決定次第、校友会ホームページにてお知らせし、
詳細は校友会報秋号にてご案内します。



会場：東京国際フォーラム

© TOKYO INTERNATIONAL FORUM CO., LTD.

お問合せ先

立命館大学校友会事務局(校友・父母課)

Tel.075-813-8216

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/al/>

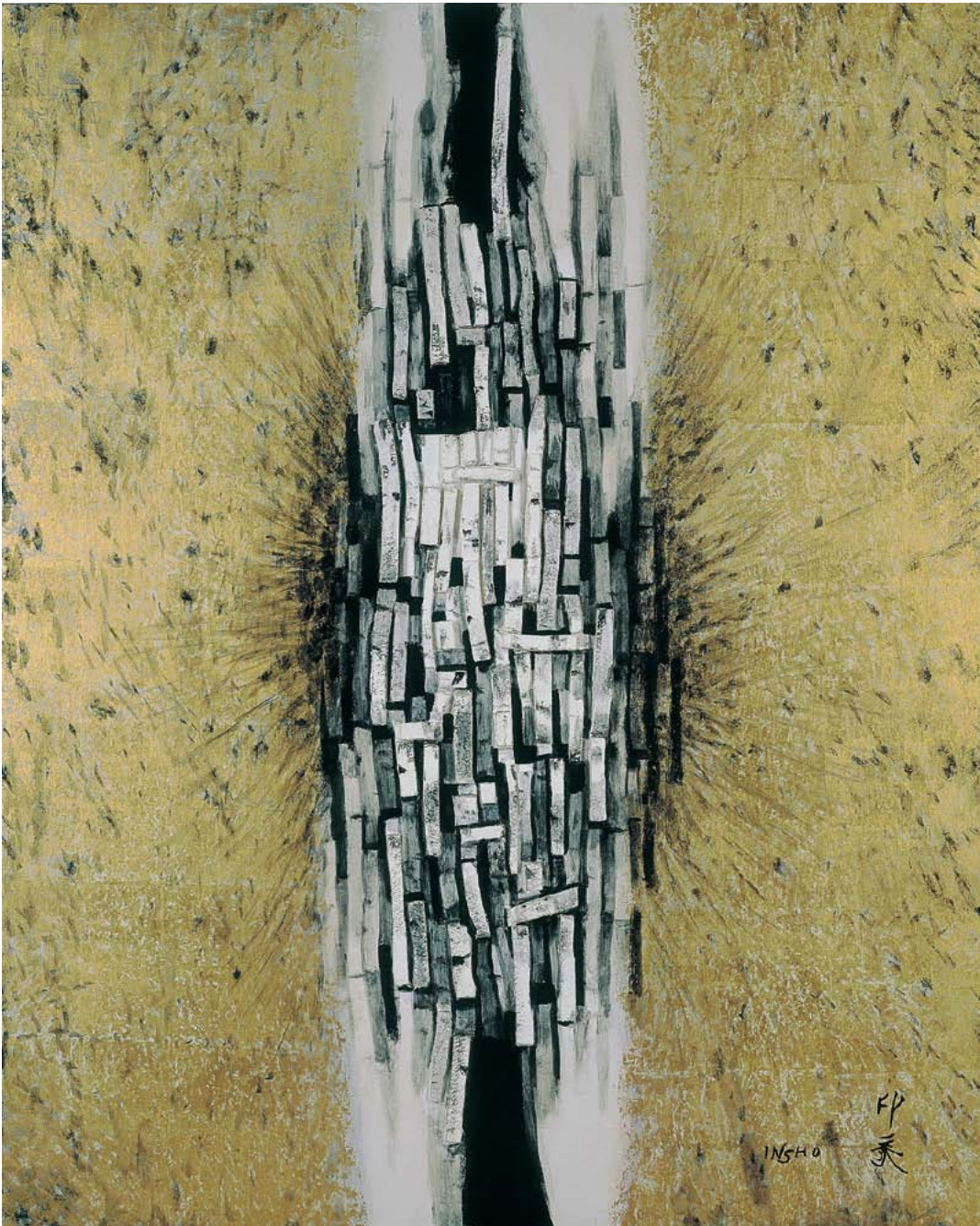
この一点

今夏開催の展覧会

「アヴァンギャルドの全貌―堂本印象の60年代―」から

「回帰」 *Endless Circulation*

昭和三八／一九六三年 紙本着色 一六〇・〇×二三〇・〇



立命館総合ミュージアム

この夏の展覧会・催し案内（一般公開分）

◆京都府立堂本印象美術館

「アヴァンギャルドの全貌 —堂本印象の60年代—」

1960年代、印象は本質的な芸術の創造を目指して斬新なスタイルを築き上げました。それは主に線の交錯と色彩によって構成された抽象表現で、印象自身によって「新造形」と名づけられました。海外でも高い評価を得たこの時代の作品に焦点を当てることで、堂本印象の革新性を紹介します。

◎会 期：7/13（金）～10/14（日）
◎開 館：9時30分～17時（入館16時30分まで）
◎休館日：月曜日（休日の場合はその翌日）
◎入館料：一般500円/高大生400円/小中生200円
◎Tel.075-463-0007 ◎http://www2.ocn.ne.jp/~domoto/

◆立命館大学国際平和ミュージアム

ミニ企画展示室の予定

- 「カンボジアからの贈り物」7月3日（火）～22日（日）
カンボジアの地雷・子ども兵問題などの中で生きる人々の姿とNPO法人による支援の様子。
- 「原爆投下候補地、京都」7月26日（木）～8月16日（木）
京都への原爆投下計画、広島や長崎で被爆した資料の展示。
- 「ミュージアム この1てん」8月18日（土）～31日（金）
館蔵資料の紹介。

◎開 館：9時30分～16時30分（入館は16:00まで）
◎休館日：月曜日（休日の場合はその翌日）ならびに9月1日～7日（本年）
◎入館料：大人400円／中高生300円／小学生200円
◎Tel.075-465-8151 ◎http://www.ritsumeai.ac.jp/mng/er/wp-museum/

◆立命館大学アート・リサーチセンター

「能楽写真家協会 写真展」

能楽写真のプロが撮影した舞台写真を、記録から、芸術の領域にまで高めようか。

能楽写真家協会としての初めての試みであり、この催しが能楽の普及、啓蒙に役立てばとの願いをもってそれぞれの能楽カメラマンが撮った作品を紹介します。

◎会 期：開催中 7/8（日）まで
◎会 場：アート・リサーチセンター 1F 展示室
◎開 室：10時～17時 ◎入館料：無 料
◎主 催：能楽写真家協会 ◎後 援：早稲田大学演劇博物館
※アート・リサーチセンター所蔵の能絵も出品中
◎Tel.075-466-3411 ◎http://www.arc.ritsumeai.ac.jp/

金

色の背景が目を引く画面の中央に存在する力強い一筋。小さな長方形が縦横に配置され、また周囲を淡い黒色によって強調された中心部分からは独特の力が伝わってきます。シンプルな構成のなかにも緊張感がうまく表現された本作品には、形態を超えた美を追求した印象の革新的な造形感覚が感じられます。

堂本印象（一八九二―一九七五）は、龍村平蔵の工房で図案を描く仕事を経て、京都市立絵画専門学校を卒業、大正八年に帝展初入選して画壇にデビューしました。それ以降、着実に作品を発表し活躍を続けましたが、昭和二七年の渡欧以降は画風を抽象へと変化させ、より一層注目される存在となります。昭和三〇年代には、「地上の形態を超えたる永遠なるものの美」という理念のもとに大胆な画面構成と色彩で日本画による抽象表現を確立します。この作品は、昭和三八年に上野松坂屋にて開催された「堂本印象新造形作品展」の図録表紙を飾ったものです。印象の幅広い創作活動を知ることができる作品のひとつです。

（学芸員：山田由希代）

堂本印象美術館

「アヴァンギャルドの全貌 —堂本印象の60年代—」

7/13（金）～10/14（日）

会期中有効

校友招待券

（校友1名様無料でご入館いただけます）
校友会報「りつめい」No.229

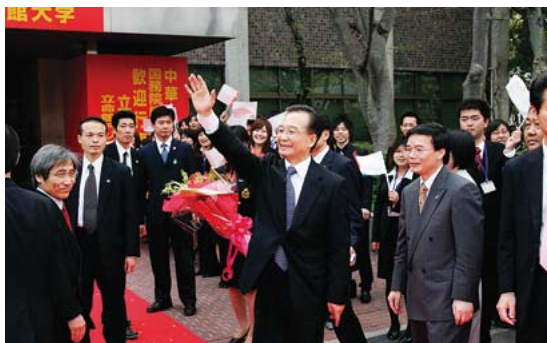


中国・温家宝総理が本学を訪問

四月十三日（金）、中国の温家宝総理が立命館大学を訪れ、立命館大学生や立命館小学校の児童と交流を行いました。温総理の日本訪問は、日中両国間の協力関係の強化を目指したものであり、その中で教育、文化、青年の交流促進は長期的な両国間の安定的発展にとって重要なテーマとして位置づけられています。

訪問の背景

温総理が今次、立命館大学に來学したのは、これまでの立命館大学と中国の良好な関係のためです。立命館大学は日中国交回復以前から日中の交流を重視し、一九五五年に中国科学院學術考察団（代表 郭沫若氏）、一九五七年には中国赤十字社代表団（代表 李德全氏）を迎えて、歓迎してきました。一九九〇年代、特に二〇〇〇年の立命館アジア太平洋大学開学以降、中国からの留学生や立命館学生の中国の大学への留学も飛躍的に伸びつつけています。また、二〇〇四年からの中国大学



管理運営幹部特別研修には中国の大学教授等の方々ですでに五百名以上も参加され、二〇〇五年には日本で最初の孔子学院が立命館大学に設置されるなど、日中間の青年、學術交流を進めてきました。

交流の様子

温総理一行は十五時前に立命館大学衣笠キャンパスへ到着。吹奏楽部など、五百名の学生、教職員の歓迎を受けるなか、図書館での学生との交流会へ参加されました。交流会では中国語を学ぶ学生四名のスピーチを受けて、「時間を忘れて勉強することが人生において重要」などとアドバイス。また、立命館小学校の児童とともに漢詩を朗読し、その詩を自ら揮毫されました。交流会の最後に温総理は、立命館大学図書館へ「四庫全書」（中国の古典をまとめた書物約五百巻）を寄贈されました。



交流会に続いて、京都市西京極総合運動公園野球場にて、立命館大学硬式野球部との交流企画が行われました。西京極野球場の正面玄関前では、約百六十名の立命館大学、立命館高等学校及び立命館宇治高等学校野球部員等が歓迎しました。

球場では、温総理に日中友好三十五周年を記念してつくられた立命館大学硬式野球部背番号35番のユニフォームが贈られました。ユニフォームに着替え、一塁側ベンチから入場された温総理は、立命館大学硬式野球部主将 棚山幸徳さん（産社4）、捕手 乗替寿朗さん（産社3）とキャッチボールを楽しんだ後、マウンドへ。バッターボックスの棚山さんに対して、空振りをする好投を見せました。最後に立命館大学硬式野球部に北京オリン

ピックの帽子を贈呈され、野球部員とともに記念撮影。鄭袖衣さん（文3）からは花束の贈呈も行いました。

スーツに着替えてから行った会見では、「今回の訪日では、京都の嵐山、右京区の農家を訪問、そして立命館大学の学生と野球を通じた交流も楽しむことができ、大変楽しかった」と笑顔で語られました。



第二回「世界孔子学院フォーラム」を開催

五月九日（水）～十二日（土）、衣笠キャンパスにて「世界孔子学院フォーラム」が開催され、世界二十三方国、五十の孔子学院からの代表者約二百名が集まりました。

開催までの経緯

このフォーラムは、世界の孔子学院代表が、各孔子学院の経験を交換し、世界における中国語教育の実情や多文化間交流、孔子学院の役割、グローバル時代における言語と文化等について議論するもので、今回、世界で初めての開催となりました。本フォーラムは、二〇〇六年七月に北京で開かれた「世界孔子学院大会」で、当時の長田豊臣・立命館総長が代表発言の中で開催を提案し、参加者全体から大きな拍手で歓迎を受けたため実施が決まりました。中国国家漢語国際推進広領導小組弁公室等のご支援を受けて、立命館孔子学院と立命館アジア太平洋大学孔子学院が発起人となり主催しました。

開会式・フォーラム

主な行事は、五月十日（木）から始まりました。以学館2号ホールにて行われた開会式で、川口清史立命館総長が「孔子学院で行われている中国語教育の実践例を参考に、多文化共生の可能性を探りたい」とあいさつ。陳進玉氏（中華人民共和国孔子学院本部理事會副主席・前國務院副秘書長）は、「中国語の普及を通じて古き良き、そして多彩で現代的な中国を伝えていきたい」と述べ、王毅氏（中国駐日本国大使館特命全權大使）も「五十年の歴史が凝縮されている中国語を学ぶことは中国文化を理解することにつながる」と孔子学院の意義を強調されました。

午後から行われたフォーラムでは、タイ、アメリカ



カ、中国、オーストラリア、ドイツからの孔子学院関係者が、それぞれの活動を紹介。日本からは、立命館孔子学院が活動を紹介しました。

国際シンポジウム・パネルディスカッション・記念文化祭

五月十一日（金）には、同じく以学館2号ホールにて、上野隆三立命館大学国際部副部長・文学部教授司会による国際シンポジウム「グローバル化時代における言語と多文化共生」を実施。古川裕氏（大阪外国語大学教授・中国語教育学会会長）、于丹氏（北京師範大学教授・竹内実氏（京都大学名誉教授・立命館大学元国際関係学部長）による基調講演では、グローバル化時代における言語教育の重要性が語られました。

その後のパネルディスカッションでは、パネリストの西田健一氏（丸紅株式会社理事・丸紅経済研究所顧問）、クリス・レイコク氏（関西アメリカン・

センター館長）、嘉数勝美氏（国際交流基金日本語事業部部長）が、孔子学院における人材育成やグローバル化した世界における多様性の重要性について述べ、コーディネーターの周瑋生・立命館孔子学院長は「世界は、経済も人材も環境もグローバル化している。言語は基本的な道具であり、各地域の発展に貢献していきたい」と話しました。

午後からは、以学館1号ホールにて「世界孔子学院フォーラム記念文化祭」が行われ、「起・百花齊放・千客万来」「承・響き合う調和（音楽の部）」「転・パベルの塔を超えて（身体パフォーマンスの部）」「結・新たな出発に向けて」の四つのストーリーに合わせた、学生や留学生などによる日中の伝統芸能の演奏やパフォーマンスなどが繰り広げられました。



第一回 京都21世紀教育創造フォーラムを実施

五月十一日

(金)・十二日(土)、立命館小学校において、経済界や教育関係者、市民らが連携し、教育について考える「京都21世紀教育創造フォーラム」を実施しました。

立命館は「私学」として、「一貫教育」あるいは「接続教育」というコンセプトの下でこれまで様々な取り組みを進めてきました。そこで、このような取り組みを外部に発信し、また発信しながら学ぶという趣旨で開催の運びとなりました。日本経済新聞社、京都経済同友会、京都商工会議所、京都市教育委員会などと共催で行い、二日間で約千五百名の参加者がありました。

メインテーマは、「将来を担う子どもたちのために、大人社会は今何ができるか」。様々な立場を超え、学校頼みでなく「社会の子」を日本の貴重な人材資源、財産として育成する地域ぐるみの環境づくりこそが急務との視点に立ち、多彩なプログラムを開催いたしました。

第一日目ーオープンスクール・シンポジウム

十一日の第一部は、オープンスクール。京都市立小・中学校、立命館小学校において、「スチューデントシティ・ファイナンスパーク授業」実際の街を再現した館内で職業体験(元滋野中学校内 京都まなびの街 生き方探究館)、「小中一貫授業」中



学校で学ぶ小学校六年生の授業(京都御池中学校)、「京料理に学ぶ食育授業」有名老舗料理店が実技指導(新町小学校)、「論理的読解力の授業」フィンランドの実践を元にした京都市独自のカリキュラム(御所南小学校)、「立命館小学校公開授業」(立命館小学校)が特色ある取り組みを紹介しました。

第二部は、立命館小学校においてシンポジウムを開催。北城恪太郎氏(日本IBM最高顧問・経済同友会終身幹事)が「21世紀の教育創造ー子供たちのために大人社会は今何ができるか」という演題で基調講演。日本の人口減や中国、インドの台頭などに触れ、「日本が人口減と高齢化を迎え、多額の長期債務を抱えて国際競争に耐えていくには、イノベーションの担い手となる人材育成が必要である。そのためには、教育が家庭や企業・社会と連携していく必要がある」と力説されました。

その後、川勝平太氏(静岡文化芸術大学学長・国際日本文化研究センター客員教授)をコーディネーターに、「21世紀の教育創造ー子どもたちのために大人社会は今何ができるか」をテーマにしたシンポジウムを実施。寺田千代乃氏(関西経済連合会副会長)、山谷えり子氏(内閣総理大臣補



佐官・教育再生会議担当事務局長)、門川大作氏(京都市教育長)、川本八郎氏(学校法人立命館相談役)がパネリストとして議論。川本氏は核家族化などが進んだ現代において、「学校だけでなく、企業や自治体なども教育的機関であるという認識を持ち、教育に取り組んでほしい」と話しました。

第二日目ーワークショップ

十二日には、立命館小学校で午前十一時から体験型のワークショップを開催。「親子おむすび教室」、森田真利氏(京都「おやじの会」連絡会会長)による「わが子の父親から地域のおやじへーおやじの会活動報告」、瓜谷輝之氏(日本ヒューレット・パッカーD経営企画室GPA部長)による「企業が取り組む社会貢献」、村上美智子氏(京都市立御所南小学校校長)による「コミュニケーションの実践」、陰山英男氏(立命館小学校副校長)による「親のための陰山メソッド」を実施。

その後、「21世紀の教育創造ー父親力を問う」と題し、元サッカー日本代表監督の岡田武史氏が基調講演。続いて、陰山英男氏(立命館小学校副校長)がコーディネーターとなり、山折哲雄氏(宗教学者)、三田寛子氏(女優)、山田正人氏(経済産業研究所総務副ディレクター)、堀場厚氏(堀場製作所社長・京都経済同友会特別幹事)が、岡田監督も交えてパネルディスカッションを行いました。「父親の社会的な経験や知恵を家庭経営に生かせ」との意見が相次ぎ出され、ワーク・ライフ・バランスの推進が企業、家庭で不可欠との認識で一致しました。

このシンポジウムの最後に、「京都教育会議」の開催が提案されるなど、産公学で教育のあり方を考えていくことの重要性が確認されました。

陳凱歌監督講演会 「21世紀、アジア、映画」を開催

四月二十五日(水)、二〇〇七年度より立命館大学映像学部客員教授に就任した陳凱歌(チェン・カイコー)監督を衣笠キャンパスに迎え、立命館大学映像学部開設・文学部創設八〇周年記念講演会「21世紀、アジア、映画」を開催しました。

基調講演

第一部の基調講演は「映画は21世紀において存続できるか?」との陳監督の質問提起から始まり、監督は、「人間自身の映像がある限りにおいて映画は存続し続ける。映画は人間が自己を観察することを可能にした、歴史上で一番の発明」と語りました。また、映像制作を志す学生に、創作活動の心得として、①映画は現実の生活の過程を通して自身の心から生まれるものであり、トロフィーを得ることを期待して創作活動に励むものではないこと、②「目は心の窓」、じっくり観察し、そこで発見・思いついたことが映画を作る上で重要であること、③物語において愛と憎しみは両輪の関係であること、④表現したいものを表現することが重要であること、の四つを強調しました。



シンポジウム

第二部は、陳凱歌監督の夫人で女優兼プロデューサーの陳紅氏、上野隆三氏(文学部教授)、北野圭介氏(映像学部教授)を交えた四者でのシンポジウム。上野教授の「国境の垣根を意識せず作品に取り組むのか?」の問いに陳監督は、「映画は国際化しており、自国だけの活動では幅が狭い。映画を通して日中韓が手を取り合えば、それが政治交流を超えた国際交流になる」と、アジアの国際交流を視野に入れた返答をしました。陳監督と学生との質疑応答も、熱く交わされました。

山田廣成理工学部教授が 「二〇〇七年度科学技術分野の 文部科学大臣表彰」を受賞

四月十七日(火)、理工学部の山田廣成教授が、「二〇〇七年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞(科学技術振興部門)」を受賞し、東京都港区内のホテルで行われた表彰式で、池坊保子文部科学副大臣から賞状と受賞楯を授与されました。

この賞は、科学技術の振興に寄与する活動を行った功績を讃え、授与されるもので、山田教授は「卓上型シンクロトロン」の開発と利用に関わる科学技術の振興」の業績が認められ、受賞することとなりました。



山内寛紀理工学部教授が 日本電信電話(株)と 「電子透かし」技術の実験を開始

山内寛紀・理工学部教授は、日本電信電話(株)(NTTグループ)と共同し、顔写真などの画像に模様を埋め込む「電子透かし」技術を導入した受講カードを作成し、山内教授の講義で受講生の出欠を管理する実験を行っています。



電子透かし技術は、ネット上の画像データの不正コピー防止などのために、薄く模様などを差し込む技術。この模様が暗号化された情報になっており、カメラで読み取り瞬時に本人と認証する出欠管理システムを開発しました。

透かしの模様は最高十億種類まで作ることができます。受講カードは市販のプリンターで印刷でき、電子マネーで使われるICカードと異なり、製作費は紙代や印刷費だけで済みます。

今回の実験は、四月から学生約二百名を対象に実施。受講生の出欠履歴をネットを通して教員や本人が見ることができ、実験では読み取り機四台を用意し、学生はカードをかざして入室します。そして、多人数が短時間に使用した際のトラブルの有無や効率性などを調べます。

今後はコンサート、学会や講演会等で利用できるかを検討する予定となっています。

文部科学省

「グローバルCOEプログラム」に
二件が採択されました

文部科学省「グローバルCOEプログラム」において、立命館大学からは「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(人文科学分野)及び「生存学」創成拠点(学際、複合、新領域分野)の二件が採択されました。

文部科学省「グローバルCOEプログラム」とは、二〇〇二年度から文部科学省において開始された「21世紀COEプログラム」の評価・検証を踏まえ、我が国の大学院の教育研究拠点を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、もって、国際競争力ある大学づくりを推進することを目的とする事業です。

「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」(中核となる専攻等名:アートリサーチセンター、拠点リーダー:川嶋将生 文学研究科・教授)は、日本文化の中心地の一つである京都という大学の地理的利点を活かし、これまでの21世紀COEプログラムの成果を基盤として、人文学とITを結びつける「デジタル・ヒューマニティーズ」の創成を目指すもの。世界に向けて日本文化を発信する教育研究拠点としての役割が大いに期待できることから採択されました。



学術研究科先端総合学術専攻、拠点リーダー:立岩真也 先端総合学術研究科・教授)は、病や、老い、障害など、ままたらない身体とともに生きる人々の経験や語りを集め、社会との関わりを解析し、人々のこれからの生き方を構想し、あるべき社会・世界を実現する手立てを示し、社会に発信することを目指します。「生存学」という、ユニークで現代が直面する研究課題を掲げて、その教育研究拠点を形成しようとするプログラムであることが評価され、採択されました。

地域拠点オフィス

「立命館プラザ」を開設

立命館大学ならびに立命館アジア太平洋大学(APU)は、全国各地の受験生とより一層直接的な接点を持ち、きめ細やか、かつ丁寧に「立命館」を伝えていくため、主要都市に地域拠点オフィス「立命館プラザ」の設置を進めることになりました。まずは福岡・名古屋・神戸・札幌の四か所が、本年七月にグランドオープン。大学や入試に関する情報発信、高等学校・予備校とのネットワーク構築の拠点として活動してまいります。

詳細は校友会報十月号にてお知らせします。



立命館プラザ・福岡

福岡市中央区天神一四二エルガーラ6F
Tel: 092-738-11201

立命館プラザ・名古屋

名古屋市中村区椿町一六一六
名古屋大和ビル8F

立命館プラザ・神戸

Tel: 052-459-0750

神戸市中央区布引町四二二二
ネオフィス三宮6F
Tel: 078-262-7080

立命館プラザ・札幌

札幌市中央区北三条西四一
日本生命札幌ビル5F「ACU」内
Tel: 011-272-3883

大阪市及び中国・同済大学との
連携による新たな教学展開を実施

これまでの中国との連携による教育研究の高度化の到達点を踏まえ、このたび、同済大学と連携して、大阪市の支援のもとに「同済大学大阪分校」を開設することとなりました。「立命館アカデミア@大阪」に設置します。

「同済大学大阪分校」においては、二〇〇七年度後期に、最新中国ビジネス事情などの公開講座やビジネス中国語講座を開講すること等を目指します。二〇〇八年度には立命館大学経営管理研究科において同済大学大阪分校連携科目を開設、二〇〇九年度には立命館大学・同済大学間のMBAデュアルディグリープログラム、立命館大学・同済大学間の理工系及び中国研究をはじめとした社会・人文科学における連携を目指します。また、社会人も参加しやすいように、夜間や土日を活用した時間でプログラムを提供する予定です。

二〇〇七年度新司法試験
短答式試験に一三〇名が合格

六月七日(木)、新司法試験短答式試験の結果発表が行われ、立命館大学からの受験者一六九名のうち二三〇名が合格しました(昨年度は二〇二名中六九名合格)。合格者数では全国で七位、うち私大では五位でした。最終合格発表は九月十三日(木)です。

夢は「サイエンティスト」であり「ピアニスト」 文武両道で掴んだアマチュア世界一の栄冠

パリで開催された「第18回国際グランドアマチュアピアノコンクール」において、村上将規さん（理工学研究科M1）が見事優勝に輝いた。

このコンクールに、今年は約30カ国・地域から100人以上のアマチュアピアニストが参加。その中で、村上さんは日本人史上3人目の優勝を勝ち取った。

国際グランドアマチュアピアノコンクール優勝おめでとうございます。これはどのような大会ですか。そしてご自身の栄誉をどのように受け止めていらっしゃいますか。

この大会は、地元パリでは音楽に精通していない人の間でも有名な大会です。出場に年齢や職業による制限はなく、ピアニストとして生活していなければ誰でも参加できます。出場者の中には医師やファイナンシャルアナライザーといった様々な職業を持つ方がいらっしゃいました。私は今回が初出場で、このコンクールのことは雑誌で知りました。

優勝は一つの「きっかけ」でしかなく、私はまだスタートラインに立つ権利を得ただけだと思っています。今後については、自分に与えられる機会や縁を大切に、それぞれの状況に応じてどう動いていくかを考えていきたいと思っています。

村上さんは理系の研究とピアノを両立しておられますが、どんなことを考えて現在までこられたのですか？ピアノとの出会いや、影響を受けた人、音楽についてのお考えなどを教えてください。

6歳のころ、親の勧めでエレクトーン教室に通い始めたことが始まりでした。その一年後、



表彰式のひとこま（写真提供：吉田 LY 久美子さん）

個人のピアノの先生につきました。そこには当時、ある2人の高校生の先輩も通っており、私にとって最初の発表会で、D.ミヨーの『スカルムーシュ』をデュオで演奏していたのを聴いて衝撃を受けたのを覚えています。思い返せば、彼女たちへの憧れと、「いつかこの曲を誰かと弾きたい」という気持ち、また何よりピアノは楽しいという気持ちが今まで続けることができた大きな理由なのかもしれません。

音楽大学へ進むかどうか悩みましたが、やはり理系の勉強、特にバイオテクノロジーを学びたいという思いが強くなりました。そのため最終的には、立命館大学で、理系の勉強とピアノを両立させていくことを決断しました。学部時代を経て思うのは、課外自主活動に対して補助金を頂けたことが、ピアノを続けるうえで大きな助けになったということです。そのおかげで、国内外の多くのコンクールに出場することができました。

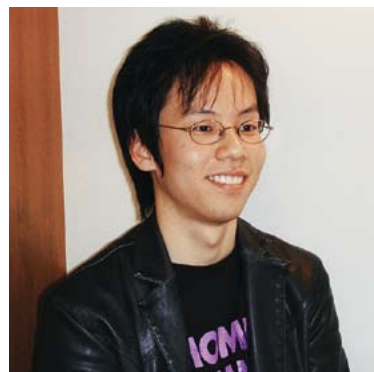
ピアノを弾く上で最も大切なことは、「相手を知り、それを自分流に掘り下げる」ことです。作曲者がどういう思いで音を並べたのかを捉え、その曲に求められる音色・フレーズ・構成など、作曲者の意図を読みとって自分なりに咀嚼し、且つ、それを聴いている人に伝わるように表現する。それが音楽をする上で必要とされることです。

音楽は、「その人の内面を映し出す鏡」といっても過言ではないかもしれません。これは作曲者にとっても、その音楽を奏でる人にとっても言えることです。経験談ですが、アマチュアピアニストに特にこれが顕著に表れているような気がします。パリで聴いたどの演奏も、その人の今まで背負ってきた人生・経験を直に形にしたようなものばかりでした。プロによる演奏とは一味違った洗練された演奏がそこにはありました。

村上さんの今後の抱負や、読者へのメッセージをお願いします。

私にとってピアノは人生の一部で、無くて

Masanori Murakami



ファイナルにて（写真提供：村上さん）

村上 将規さん

理工学研究科博士課程前期課程

情報理工学専攻1回生

ピアノサークル インタープレイ所属

はならないものです。学業と両立していく上で、その都度の「頭の切り替え」がとても大切だと思っています。今後もうまく両立させて、将来は研究職に従事したいと思っています。

私はどんな形であれ、後ろを振り返ったときに「あんなことがあったなあ」という「足跡」をつけていくことが大事だと思います。その上で、限りある時間の中で何に力を入れていくか、その時その時で力のバランスを柔軟に変えていくことが重要です。そして良いことも悪いことも思い出として自分自身の中に残すことができたなら、毎日が充実したものになると思います。ぜひ皆さんも自信をもって、前を向いて進んで欲しいと思います。

取材・文：向 梨奈（学生広報スタッフ／MOT M2）

学生のスポーツ&イベント

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/st/student/info/>

スキー部

「FIS (国際スキー連盟) 公認第14回全日本学生アルペンスプリング大会」

(4月1日～4月5日 長野県志賀高原スキー場西館山コース)

▶優勝 吉江知子(文4)



日本拳法部

「第11回 西日本学生・高校日本拳法選手権大会」

(4月15日 大阪府立体育館)

▶ベスト8

バスケットボール部(女子)

「第28回 全関西女子学生バスケットボール選手権大会」

(4月29日～5月6日 なみはやドーム他)

▶3位

▶優秀選手賞: 安田敦子(産社2)

バスケットボール部(男子)

「第34回 関西学生バスケットボール選手権大会」

(4月21日～5月5日 東淀川体育館他)

▶2位

バドミントン部

「関西春季リーグ戦」

(5月21日 臨海スポーツセンター他)

▶優勝(男子・女子)

男子陸上競技部

「第84回関西学生陸上競技対校選手権大会」

(5月14日、5月18日～20日 奈良市鴻ノ池陸上競技場)

▶総合 2位

▶トラックの部 優勝

▶ハンマー投げ 優勝 廣瀬裕人(経営3)

女子陸上競技部

「第84回関西学生陸上競技対校選手権大会」

(5月14日、5月18日～20日 奈良市鴻ノ池陸上競技場)

▶総合 4位

▶トラックの部 2位

▶10000m 優勝 樋口紀子(経済4)

CULTURE / ART

文化・芸術

問い合わせ先: 学生オフィス
075-465-8141

応援団吹奏楽部

「第30回全日本アンサンブルコンテスト」

(3月21日 横浜みなとみらいホール)

▶銀賞

応援団吹奏楽部のパーカッションパートの打楽器八重奏が関西代表として出場し、銀賞を受賞。



バトントワリング部

「第28回世界バトントワリング選手権日本代表選考会」

(3月24日 名古屋市総合体育館レインボーホール: 現「日本ガイシホール」)

▶団体 1位

世界大会出場権を獲得

法友会

「第9回新島襄記念法律討論会」

(3月3日 同志社大学)

▶立論の部 優勝

本学学術公認団体の法友会が立論の部で見事法友会史上初の優勝を成し遂げた。

新島襄記念法律討論会は法律の全国大会といわれており、早稲田大学や慶應大学等の関東の大学も参加し、論者による論旨発表が競われる。当日は本学法友会の論者である谷与さん(法2)が論旨を発表し、結論の妥当性が審査員に大きく評価され、見事な結果に結びついた。

将棋研究会

「平成19年度春季個人戦」

(4月30日、5月13日 大阪市立大学)

個人戦 優勝 和井田 祐司(経営3)

▶4位 石本 優(文4)

*学生名人戦の出場権を獲得。

「平成19年度春季女流戦」

(4月30日 大阪市立大学)

▶優勝 畑 香奈美(法1)

▶2位 石井 志奈(国関4)

囲碁研究部

「第5回世界学生囲碁王座戦」

(2月26日～3月2日 東京都千代田区日本棋院)

▶4位 武田 淳(文3)

※回生は2007年度のもの
(ただし航空部片岡さんについては大会開催時のもの)

SPORTS & EVENTS

S P O R T S

スポーツ

問い合わせ先：スポーツ強化オフィス
075-465-7863



アメリカンフットボール部

「長浜ひょうたんボール」

(5月6日 長浜ドーム)

▶ ○35-9 近畿大学



弓道部

「第51回関西学生弓道選手権大会」

(5月26日、27日 グリーンアリーナ神戸)

▶ 団体 優勝(男子、女子)

▶ 男子個人 優勝 岸田 正輝(産社1)

▶ 女子個人 2位 四ノ宮 明日香(国関3)

弓道部男子・女子がそれぞれ標記大会の団体の部において勝利をおさめ、アベック優勝の快挙を果たした。立命館大学のアベック優勝は、1984年以来2回目で、同一大学で2回のアベック優勝は関西選手権史上初めて。男子は5年ぶり、女子は3年連続の優勝とともに7回目となる。



硬式野球部

「関西学生野球六大学春季リーグ戦 立同戦」

(5月28日、29日、31日 西京極球場)

▶ 5/28 × 3-9 同志社大学

▶ 5/29 ○ 5-3 同志社大学

▶ 5/31 ○ 6-5 同志社大学

▶ 関西学生野球春季リーグ 優勝



5月31日、優勝をかけた立同戦第3戦、立命館大学は初回、藤原大輔選手(産社3)、柳田一喜選手(法2)などのヒットで2点を先制。3回にもキャプテンの粉山幸徳選手(産社4)のソロホームランなどでさらに2点を追加。しかしその後は失点を重ね、逆転される。だが、8回にエラーで出た粉山選手が日岡選手(産社4)のタイムリーツーベースヒットで返り、同点に。さらに9回、ヒットで出た藤原選手がエラーの間に生還し、逆転。試合を決めた。

試合後、粉山幸徳キャプテンは、「みんなが諦めずやった結果、優勝できたのだと思う」と話した。



剣道部

「関西学生剣道選手権大会」

(5月20日 舞洲アリーナ)

▶ 2位 吉井祐二(経済4)

「関西女子学生剣道選手権大会」

(5月20日 舞洲アリーナ)

▶ 2位 俊野彩佳(法4)



航空部

「第47回全日本学生グライダー競技選手権大会」



(3月3日~11日 埼玉県妻沼滑空場)

▶ 優勝 片岡優司(文3)



自転車競技部

「第9回 全日本学生選手権クリテリウム大会」

(4月29日 びわこ・くさつキャンパス)

▶ 2位 石井陽(法3)



射撃部

「2007年度 関西オープンライフル射撃選手権大会」

(4月7日、8日 能勢町ライフル射撃場)

10mS60M

▶ 2位 藪原 誠(産社1)

▶ 3位 齋藤 伸吾(法1)

50m3*20W

▶ 3位 川端 さなえ(法3)

50m3*40M

▶ 2位 木下 泰治(情理3)



重量挙げ部

「全日本女子重量挙げ選手権」

(5月12日 大阪・羽曳野コロシアム)

▶ 53kg級 優勝 角田祥子(法4)

▶ 69kg級 優勝 大杉星子(法2)



準硬式野球部

「平成19年度 関西六大学準硬式野球春季リーグ戦」

▶ 2位

▶ 打率十傑：2位 福島 淳平(経済4)

▶ ベストナイン：二塁手 福島 淳平(経済4)

▶ 最多奪三振：奥田 勇(法4)



水泳部(シンクロナイズドスイミング)

「世界水泳メルボルン2007」

(3月18日~3月24日 オーストラリアメルボルン)

▶ 銀メダル ナショナルAチーム

小西貴子(経済3)

市川智紗(経営3)

小林千紗(経済2)

この春以降朱雀キャンパスでは私の所属する司法書士会や行政書士会の立命館出身者の組織の創立総会が開催されてきました。

総会の前に朱雀キャンパスを見学した参加者達はいずれも、その偉容に驚きつつも、そこに脈々と受け継がれる立命館の精神を感じているようでした。

また、法学部同窓会でも来年から財政基盤のあり方をより堅固にするための議論が進み、我が「会報りつめい」編集の広報委員会でも、よりよい校友会会報のあり方に向けて担当者一同知恵を出し合っています。

以上、様々な場所で新しい息吹が感じられる立命館の今日この頃です。（宮西徳明）

私事になりますが、京都にある50の大学が連携して「大学のまち・京都」「学生のまち・京都」を盛り上げる為に各種の事業を展開している（財）大学コンソーシアム京都の outgoing を終えて、10年ぶりに立命館大学（校友・父母課）に戻ってきました。価値観、仕事の進め方、職場文化や風土全てが異なり、異業種に転職したような不思議な気分です…。

心機一転、今の新鮮な気持ちを持ち続けて、多様性を極める校友会活動の活性化、特に校友会全体の約40%を占めるまでになっている20歳代・30歳代の校友ネットワークの再構築に全力投球したいと考えています。（武田）

先日、今号の「輝くひと」でお話を伺った乾光孝さんの取材に同行し、上賀茂神社へ行きました。取材後、参拝をさせていただきましたが、欄宣の方からお話を聞いた後でしたので、今までと違った親近感を覚えました。上賀茂神社では松皮葺屋根の葺き替え資金を募っていらっしゃいました。そこで私も松皮を1枚購入し願い事を書いて奉納したのですが、それがこれから何年も上賀茂神社の屋根を守っていくのかと思うと、なんだか歴史に自分の力ケラを残せたようで嬉しくなりました。（奈）

お詫びと訂正

228号において「りつめいインタビュー」欄に登場していただいた井辻秀剛氏の卒業学部を誤って掲載しました。ここに訂正し、深くお詫び申し上げます。
誤：法学部 正：経営学部

2007年度立命館学園債のご案内

●発行日：2007年10月1日（予定）
●申込期間：2007年8月20日～2007年9月28日（予定）

*募集総額、条件（1口の金額、利率、据置期間等）については、7月下旬に決定し

ホームページ <http://www.ritsumeai.ac.jp>
等でお知らせする予定です。

*募集要項等は、下記の連絡先までご請求ください。

お問い合わせ先 立命館大学 財務部 基金課
TEL.075 (813) 8166
E-mail gakusai@st.ritsumeai.ac.jp

りつめい No.229／2007年7月号

発行所／立命館大学校友会／年4回発行
発行人／山中 諄
編集人／尾崎 敬則
〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1
Tel. 075 (813) 8216
Fax. 075 (813) 8217
URL：http://www.ritsumeai.ac.jp/mng/al/
E-mail：alumni@st.ritsumeai.ac.jp

校友会・グループインフォメーション

※（職）は職場電話番号

校友会・グループ	日時	会場	問い合わせ先
神奈川県校友会総会	7/1（日）13:30	崎陽軒 本店	長谷川貞崇 045 (933) 4662
大阪校友会年次大会	7/6（金）18:30	スイスホテル南海大阪	大阪オフィス 06 (6201) 3610
関東新校友会歓迎会	7/7（土）13:00	有明パナソニックセンター	東京オフィス 03 (5204) 8611
山口周南地区校友会	7/7（土）18:00	サンルート徳山	小西コン子 0833 (41)0412
機友会京都支部総会	7/7（土）16:30	京都ガーデンパレス	佐々浪元彦（職）075 (221) 3373
愛媛県校友会総会	7/7（土）17:00	いよてつ会館5階クリスタルホール	石田 二朗 089 (925) 2547
八尾市役所立八会総会	7/7（土）8（日）両日	き乃糸	北園了三（職）072 (991) 3881
群馬県校友会総会（10周年）	7/8（日）14:00	ホテルメトロポリタン高崎	石橋 博 027 (372) 8422
岩手県校友会総会	7/8（日）14:00	ホテル・エース盛岡	大橋謙一 019 (623) 6575
滋賀県校友会総会	7/14（土）11:00	ホテルボストンプラザ草津	徳田克彦（職）077 (521) 2054
広島県西部地区校友会総会	7/14（土）17:00	割烹料亭永渡屋	田中 武士 0829 (54) 6201
清和会総会	7/21（土）14:00	ウエスティン都ホテル京都	立命館中・高 075 (645) 1051
岐阜県校友会総会	7/21（土）17:00	ホテルグランヴェール岐山	折戸優児（職）058 (251) 2240
秋田県校友会総会	7/21（土）15:00	ホテルメトロポリタン秋田	児森勲夫 018 (834) 6871
静岡県校友会総会新校友会歓迎ビアパーティ	7/22（日）17:00	クーボール会館	佐藤友清 054 (246) 5612
徳島県校友会総会	7/29（日）16:00	阿波観光ホテル	坂東照伸 0883 (36) 4009
香川県校友会総会	8/4（土）16:00	喜代美山荘「花樹海」	田村靖伸 087 (843) 7275
沖縄県校友会総会	8/4（土）18:30	ホテルロイヤルオリオン	金城 信尚 090-3792-5848
高知県校友会総会	8/11（土）18:00	城西館	西山陽典 0889 (22) 2824
憲法研究会OB会	8/11（土）18:00	ゆりぞうと京都洛翠	有働光昭（職）075 (222) 2233
機友会関東支部総会	8/19（日）13:20	清澄庭園内大正記念館	古城敏幸（職）029 (872) 8880
広島県校友会総会（55周年）	9/1（土）16:30	リーガロイヤルホテル広島	飛松克周 082 (249) 5146
文学部哲学同窓会総会	9/8（土）14:30	朱雀キャンパス多目的ホール/Tawawa	竹内正道 0795 (87) 0090
京都校友会総会	9/22（土）午後	ウエスティン都ホテル京都	校友会事務局 075 (813) 8216
宮城県校友会総会（30周年）	9/29（土）17:00	勝山館	百崎 馨 022 (371) 5218
真田ゼミ同窓会（先生3回忌）懇親会	9/29（土）16:00 18:00	知恩院・解放運動戦士の碑前 朱雀キャンパス Tawawa	産業社会学部事務局 小倉 075 (465) 8184
兵庫県校友会総会	9/29（土）12:00	チサンホテル神戸	寺田 豊（職）06 (6429) 9906
政策科学部同窓会10周年記念パーティ	10/6（土）11:00	ホテルグランヴィア京都	政策科学部事務局 075 (465) 8166
ALL立命館デー in TOKYO	11/4（日）10:30	東京国際フォーラム	校友会事務局 075 (813) 8216
北九州校友会総会	11/9（金）18:30	ステーションホテル小倉	初村雅敏 093 (882) 9240
国際関係学部創設20周年記念総会	11/24（土）14:00	グランドプリンスホテル新高輪	国際関係学部事務局 075 (465) 1211

「白雲荘」閉館のお知らせ

立命館創設者・中川小十郎先生の旧宅「白雲荘」は、老朽化のため、2006年度末をもってご利用受付を終了いたしました。長きにわたり親しんでいただき、有難うございました。

校友消息（判明分）

叙勲 2007年春分

■瑞宝中綬章
瀬原義生氏
立命館大学名誉教授
■瑞宝小綬章
神谷昌之氏（52法）
元京都府検副検事
小島健市氏（58経済）
元京都市上京区長
中田行雄氏（64経済）
元京都府議会事務局長
■旭日双光章
河村和子氏（52法）
元京都府栄養士会長
洲崎和雄氏（58経済）
元京都府諸物工業協同組合理事長

■瑞宝双光章
高橋喜義氏（54経済）
元高松空港事務所長
岡田謙治氏（59経済）
保護司
金井政男氏（63理工）
元関東電気通信監視局陸上部長

危険業務従事者叙勲
2007年春分
■瑞宝双光章
南 範緒氏（50専法経）
警察功労
岡本良樹氏（57法）
警察功労

■瑞宝単光章
水本 修氏（49専工）
警察功労
徳永 守氏（52経済）
警察功労
西 吾郎氏（55法）
警察功労

褒章 2007年春分
■黄綬褒章
安藤忠男氏（43大専経済）
桂南作安藤人形店店主
犬石哲三氏（56法）
犬石商店社長
■藍綬褒章
笹部照博氏（53法）
保護司

受賞
井上由美子氏（85文）
2006年度芸術選奨文部科学大臣賞
第25回向田邦子賞

就任
大南正規氏（元立命館総長・54理工）
立命館名誉役員
小川 弘氏（63経済）
社団法人岐阜県建設業協会会長
山中 諄氏（65経済）
南海電気鉄道（株）代表取締役会長兼CEO
石見利勝氏（元政策科学部教授）
姫路市長（再選）
原 正憲氏（70法）
八尾市副市長
是永修治氏（79法）
大分県中津市副市長

BOOKS 校友会へご惠贈下さいました本の中から紹介させていただいております。

◆清水洋司氏（56経済）著
『ガンテツ・清洲と戦後に
生きた古い長男の思い出』
新人物往来社*
◆幸 榮吉氏（59文）著
『富い海峡』
新風舎*2300円+税
◆和田香子氏（本名：美奈子、62文）著
『雨蛙 和田香子詩集』
行路社*2000円+税
◆西垣義明氏（65法）著
『楽しく生きるための智慧』
柳原出版*1300円+税

◆有園正一郎氏（76院文）著
『農耕技術の歴史地理』
古今書院*1800円+税
◆近世庶民の日常食 百姓は
米を食べられなかったか？
海青社*1800円+税
◆杵野未矢氏（86産社）著
『「さん」の女、「ちゃん」の女』
双葉社*1300円+税



◆大淵幸治氏（78文）著
『ハダカの京都 解体新書
一京の身体をタテ・ヨコ・
ナナメに腑分けするー』
宮内出版社*1500円+税
◆おそれ水脈氏（古川佳代・79法）著
『あとと野となれ狂球となれ
横書き素頓狂歌』
文芸社*1200円+税
◆谷本 裕氏（85法）他著
『ピアノはいっぱいノに
なつたか？』
大阪大学出版会*1700円+税

◆外山秀一氏（87院文）著
『遺跡の環境復原ー微地形
分析、花粉分析、プラント・
オパール分析とその応用ー』
古今書院*6000円+税
◆川村匡由氏（69文）他著
『2007年版 福祉の仕
事ガイドブック』
中央法規出版*1800円+税
『市町村合併と地域福祉
「平成の大合併」全国実
態調査からみた課題』
ミネルヴァ書房*4000円+税